



Web Fairy

第122号

Paradise

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第103回 WFP 作品展 (再掲)
- ・ 第104回 WFP 作品展
- ・ Fairy of the Forest #56
- ・ 安南詰最長手順作品 (解答延長)

結果発表

- ・ 第102回 WFP 作品展
- ・ フェアリー版くるくる作品展8

読み物

- ・ 合法手による利かず駒並べ結果 (Pontamon)
- ・ All-In-Shogi の紹介 (変寝夢)
- ・ 「角谷予想」～「詰将棋コンピュータ」を検証する (Ⅲ) (神無太郎)



2018/8



この世界の片隅に

そんなにテレビドラマを見るほうではないのですが、日曜日に放送中の「この世界の片隅に」は毎週見えています。原作はこの史代さんの漫画で先立って映画にもなりました。映画も今月 15 日に CS で放送されたので見たのですが、なかなかジンと来るものがありました。

思ったのは、忠実に再現されているということ。それと広島弁に違和感がないということ。広島の方にとっては普通の標準語に聞こえますね(変な言い方ですが)。おばあちゃんが住んでいた草津は私が生まれた所のお隣ですし、地理関係も良く分るのでストーリーが頭に入りやすいのもいいですね。広島での視聴率が高いというのも頷けます。広島では小学校から原爆教育というのもあり平和への思いは高いと思います。私の育った家は原爆の時の爆風で柱などが傾いていました。その隙間から風が入ってくるんです。これが寒いんだよなあ。

最近の人は広島や長崎に原爆が落ちた年月日時を答えられないといひます。戦争や原爆を語り継ぐ人も徐々に少なくなっていくなか、皆に見てもらいたいなと思うんです。

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも 4 コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト 10、自己紹介、何でも OK です。

感想

第 1 2 2 号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん : takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々の HP アドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

占魚亭残日録

<http://d.hatena.ne.jp/sengyotei/>

第103回WFP作品展(再掲)及び
第104回WFP作品展 担当：神無七郎

岡村孝雄「来たるべきもの」
詰将棋 73手

									王	一
と			と		と					二
	歩	歩	桂		と	歩	歩			三
	ス	歩	歩	と	歩	と	歩			四
銀	歩	歩		歩	龍	と	と			五
歩	と	ス	歩	と	飛					六
銀	桂		銀	と						七
	香			桂						八
香	馬									九

持駒 なし
(詰将棋パラダイス、2015年5月)

上は平成 27 年度看寿賞長編部門受賞作、岡村孝雄氏作の「来たるべきもの」です。

煙詰は 36 枚の駒を消すということから手数の下限が自動的に 73 手に決まります。この作品はそれを達成し、看寿賞を受賞しました。

フェアリーでも煙詰はたくさん作られてきましたが、手順選択のロジックに関するルールの変更だけでは 73 手という下限値は変わりません。例えば筆者も昔、こんな作品を発表したことがあります。

神無七郎
強欲ばか詰 73手

										一
									香	二
と	桂							と	歩	三
と	桂			と	と			と	香	四
と	桂				飛	角		と		五
と				歩						六
金	銀	銀			銀	角				七
金	香	香	歩	歩		飛	桂			八
金	金	銀							王	九

持駒 なし
(Onsite Fairy Mate、2001年3月12日)

これは Onsite Fairy Mate 第 44 回トップページ出題作 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/solve/solution09.html#第44回>) です。強欲詰は煙詰が作りやすく、今までフェアリーで作られた 73 手

の煙詰はすべて強欲協力詰です。

もちろん、ルールによっては普通詰将棋と煙詰の手数の下限値が変わります。対面詰だと消す駒が 37 枚になるので下限値は増えますし、取捨でルールや連続詰系のルールでは、同じ枚数を消しても下限値は小さくなります。

煙詰以外の例も考えてみましょう。

例えば盤上最長距離の往復。

攻方の駒が寄り道せずに直接 11 と 99 を往復する手順を考えましょう。普通詰将棋のルールだと以下のように 15 手掛かります。

詰将棋 15手

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

99 角成 87 玉 89 龍 76 玉 78 龍 65 玉
67 龍 54 玉 56 龍 43 玉 45 龍 32 玉
34 龍 21 玉 11 馬 まで 15 手

これが安南詰だと 3 手で済んでしまいます。

安南詰 3手

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

99 角成 21 玉 11 馬 まで 3 手

賢明な読者の皆さんは既にお察しでしょうが、今回の話は「第 49 回神無一族の氾濫」のお題である「理論上の上限・下限」の補足です。

このお題の趣旨は「限界に挑戦しよう」ではありません。限界値が決まるような主題を考える作業が、新しい趣向や構想を思いつくきっかけになるかもしれないと思ったからです。

ここで紹介した「煙詰」や「盤上最長距離の往復」は、あくまでも例に過ぎません。主題は既存のものでも、新たに考案したものでも構いません。手数や枚数等、何らかの上限値・下限値が明確な主題なら何でも良いので、自分の好きな主題を選び、その限界値を満たしつつ、内容も面白い作品を投稿して戴ければ幸いです。本稿末に募集要項を掲載しますので、ご投稿をよろしく願います。

さて、今月の WFP 作品展は第 103 回の再掲載分と第 104 回の新規出題分です。

第 104 回の出題は全 11 題。問題数は第 103 回より少ないですが、手数の長い問題や、初登場のルールもあるので、油断禁物です。十分な時間を確保して解図に臨んでください。

〔第 103 回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第 103 回の出題は 12 題。5 問セットの出題があるので実質は 16 題となります。内訳は Pontamon 氏 2 題、たくぼん氏 1 題、占魚亭氏 3 題、青木裕一氏 1 題、変寝夢氏 3 題、はなさかしろう氏 1 題(実質 5 題)、神無太郎氏 1 題です。作品は基本的に投稿順に並んでいますが、神無太郎氏作はやや特殊な問題なので、最後に置いています。一種の特別出題ですが、解答締切は他の作品と同じです。

103-1 及び **103-2** は Pontamon 氏の推理将棋。当初は第 102 回出題の予定でしたが、作者の希望により第 102 回出題の 2 作と出題時期を差し替えることになりました。内容的には第 101 回出題作と同様、棋譜の特殊表記が持つ性質から多くの情報を引き出すことが重要です。**103-2** の方は条件 3) の文章表現に曖昧な点があったため、担当が注釈を追加しています。

103-3 はたくぼん氏の作品。第 100 回 WFP 作品展出題作の予備作だったそうです。第 100 回の作は香と角が主役でしたが、今回は飛と角が主役。その分、少し解き易くなっていると思います。

103-4~**103-6** は占魚亭氏の Imitator 作品。どこかで見たような初形の作品がありますね。特に **103-4** は Imitator さえなければ、例の古典作品そのものです。もちろん手順は古典作品とは違います。**103-6** は受先形式なので、初手が特に重要です。

103-7 は青木裕一氏の作品。左側に無限に広がった変則盤を使用しています。また、透明駒と覆面駒を 1 枚ずつ使用しており、いかにも何か仕掛けがありそうですね。

ここで使用されている覆面駒は通常の覆面駒ではなく、覆面(m,0)-rider ($m \geq 2$) です。これは WFP92-14 (WFP107 号) の縫田氏光司氏作で使用されたものと同じです。(m,0)-rider は左右に m マスずつ跳ねて進む駒ですが、肝心の m の値は 2 以上の整数ということしか分かりません。m に覆面が掛かっているわけです。

透明駒の方は受方 1 枚ということと、これが詰将棋であることから、種類は玉に確定します。透明駒なので位置は不明ですが、種類が分かっているのは大きいですね。

この作品を解く有力なヒントは WFP111 号にあるので、もし苦戦するようなら、その記事と WFP112 号の解答を参考にしてください。

103-8~**103-10** は変寝夢氏の作品。どれも受方持駒制限があるので、初形で示された駒だけで(リパブリカンの場合はこれに受方玉を加えて)解いてください。

まず、**103-8** は中立駒を使ったリパブリカン協力詰。リパブリカンでは最終手になるまで受方玉は現れないので、攻方の初手と 3 手目には王手義務はありません。ルールから明らかなので「非王手可」は省略しています。

103-9 は中立駒を使ったレトロ協力詰。4 手逆算して 1 手詰を作る問題です。通常の駒のレトロに慣れた人でも、中立駒のレトロとなると少し戸惑うかもしれません。中立駒は詰ましにくいので、詰型を先に考えることが解図の常道でしょう。

103-10 はボカスカと中立駒の組み合わせ。この組み合わせでは北村太路氏が面白い作品を見せてくれているので、変寝夢氏も刺激を受けたのでしょうか。まずは初手、どちらの龍で王手を掛けるのが重要な岐路になりそうです。

103-11 は、はなさかしろう氏による変則推理将棋 5 題のセット。初形から少し駒を入れ替えるだけであつという間に詰むので、その形と、

詰手順を求めよという問題です。WFP101号にも掲載された、詰将棋メモの「推理将棋 108-1」の続編ということなので、参考にしてください。

最初の2つの会話文は5題共通で、そこから少しずつ駒の入れ替えに関する条件が変わっていきます。また、入れ替えについては作者による以下のような注釈があります。

※本問の入れ替え後の状態は全て、初形配置から合法で到達可能な局面です。

「一対の駒の位置の入れ替え」とは、駒Aが駒Bの初形位置に、駒Bが駒Aの初形位置に配置されることを意味し、各駒の所属は変わらず、成ることもできません。

「二対の駒の位置の入れ替え」とは、AとBの位置の入れ替え、CとDの位置の入れ替え（A、B、C、Dはそれぞれ別の駒）であり、 $B = C$ で結局は $A \rightarrow B \rightarrow D \rightarrow A$ の3枚循環や、 $A \rightarrow B \rightarrow C \rightarrow D \rightarrow A$ の4枚循環ではありません。

なお、複数の位置の入れ替えは最終的に入れ替え後の状態が実現されれば良く、一対毎の入れ替えが逐次遂行可能であるとは限りません。

なお、これは推理将棋なので、詰まされる側も協力します。①の「2手で詰んだ」も、先手が協力して2手で詰んだという意味になります。

103-sp は神無太郎氏の特殊な作品。

8×8の縮小盤を使い、攻方玉が「Torus-Root-RSA-2048-Leaper」の性能で、受方玉が「Torus-Triple-Root-RSA-2048-Leaper」の性能になっています。この長い名前のLeaperは、どちらも神無太郎氏の創案したオリジナルの駒なので、その定義を以下に示します。

【Torus-Root-RSA-2048-Leaper】 (★)

移動距離がRSA-2048の正の平方根の八方桂。ただし、盤がまるでトーラスであるかのように動き、各利きは盤内にある。

【Torus-Triple-Root-RSA-2048-Leaper】 (☆)

移動距離がRSA-2048の正の平方根の3倍の八方桂。ただし、盤がまるでトーラスであるかのように動き、各利きは盤内にある。

RSA-2048 :

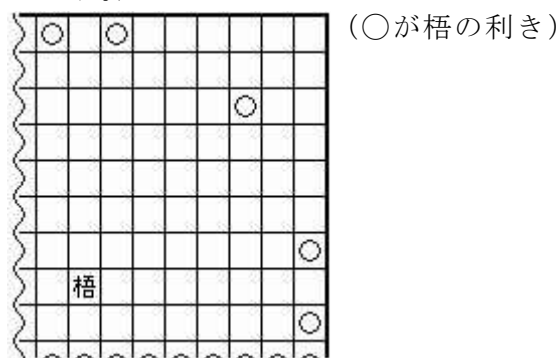
2519590847565789349402718324004839857142
 9282126204032027777137836043662020707595
 5562640185258807844069182906412495150821
 8929855914917618450280848912007284499268
 7392807287776735971418347270261896375014
 9718246911650776133798590957000973304597
 4880842840179742910064245869181719511874
 6121515172654632282216869987549182422433
 6372590851418654620435767984233871847744
 4792073993423658482382428119816381501067
 4810451660377306056201619676256133844143
 6038339044149526344321901146575444541784
 2402092461651572335077870774981712577246
 7962926386356373289912154831438167899885
 0404453640235273819513786365643912120103
 97122822120720357

(RSA-2048 出展 : https://en.wikipedia.org/wiki/RSA_numbers)

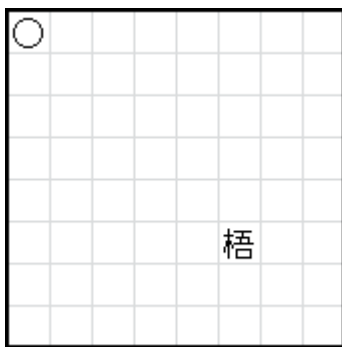
つまりは★も☆も、超長距離を跳ぶ八方桂であり、本来なら8×8の盤にはとても収まらないはずですが、「盤がまるでトーラスであるかのように」動くという条件により、盤内に利きを持つようになるわけです。

RSA-2048 と名付けられた数はとても大きいので、イメージを掴むため、もう少し小さい距離を跳ぶ八方桂を使って「盤がまるでトーラスであるかのように」動くと、どうなるか説明しましょう。

$\sqrt{50}$ の距離を跳ぶ八方桂 Root-50-Leaper (梧) は、以下のように1対7または5対5の方向に跳ぶことができます。「50」という数は $1^2 + 7^2$ と、 $5^2 + 5^2$ という2つの平方数の和で表せるので、この方向が跳び先になるのです。(厳密に言えば梧は12方桂ですが、ここでは八方桂と呼ぶことにします。)



梧を8×8盤の36地点に置いてみましょう。

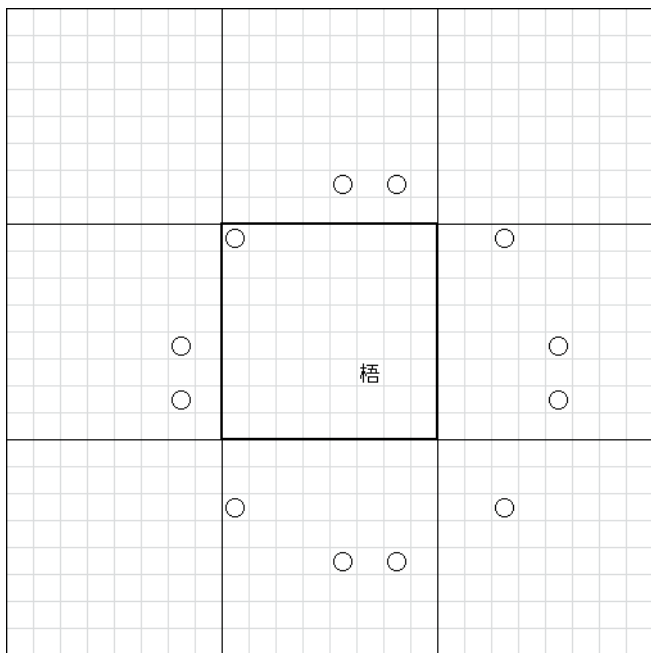


梧が動けるのは 81 地点のみとなります。

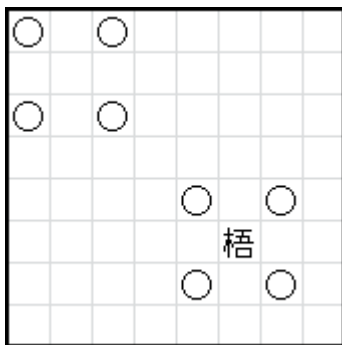
しかし梧が「Torus-梧」なら、どうでしょう？

この梧は盤がトーラス盤であるかのような利きを持つので、縦や横から周回して到達する利きを考慮せねばなりません。

そこで、8×8 盤に「Torus-梧」の視点から見える仮想的な盤を付加して、どこに跳ぶか見えるようにしてみます。



この散らばった利きを元の 8×8 盤に集めると以下ようになります。



これが 8×8 盤で 36 に置かれた「Torus-梧」の利きというわけですね。

原理的には、これと同じことを「Torus-Root-RSA-2048-Leaper」や「Torus-Triple-Root-RSA-2048-Leaper」に対して行えば良いわけですが、RSA-2048 と名付けられた数はとてつもなく大きいため、2つの平方数の和を求める作業はできそうにありません。

しかし、神無太郎氏のこの作品では、**RSA-2048 が 2つの素数の積でできていることを仮定すれば**（ほぼ間違いなくこの仮定は正しいでしょうから、解答者の皆さんもこれを前提として解いてください）、たとえ具体的に2つの平方数の和で表すことができなくとも、詰手順が求まるというのです！

これは一体どういうことか……難問ですが、そのカラクリをぜひ解き明かしてください。WFP119号に載った神無太郎氏の「自然数を2つの整数の平方の和で表す」という記事が、きっと参考になるでしょう。

〔第 104 回作品展各題への補足説明〕

第 104 回の出題は 11 題。内訳は神無太郎氏 3 題、占魚亭氏 2 題、はなさかしろう氏 1 題、変寝夢氏 3 題、Pontamon 氏 1 題、根津将棋名人氏 1 題です。

根津将棋名人氏は本作品展初登場で、作品の方も本作品展初登場のルールです。以下のルール説明と補足説明をお読みください。

104-1～104-3 は神無太郎氏の **Imitator** 作品。このところ中立駒作品を集中して発表されていた神無太郎氏ですが、**Imitator** にも芸域を広げてきたようですね。持駒は金銀だけですが、受方には一揃い持駒があるので、**Imitator** の壁として打つ可能性があることをお忘れなく。

104-4 及び **104-5** は占魚亭氏の作品。**104-4** は例によって **Imitator** を使った作品であり、作者が最近よく採用している「受先形式」での出題です。初手が特に重要ですので、詰上りを見据えて着手を選んでください。

104-5 は玉以外の駒がすべて中立駒の作品。神無太郎氏が **Imitator** を使い始めたと思ったら、今度は占魚亭氏が神無太郎流の「オール中立駒」の作品で登場しました。別に示し合わせたわけではないでしょうが、面白い偶然ですね。

104-6 は、はなさかしろう氏の変則推理将棋。通常の推理将棋は全手順を求めるのですが、本局は初形と詰上りの差分と、20 手目以降の手順

を求めよという問題設定になっています。これは **103-11** の続編に当たる作品ですが、**103-11** とは異なり、初形から2対の駒を入れ替えれば既に詰んでいる形になっています。そんな形をすべてリストアップするか、正解になりそうな形だけに読みを絞るかは皆さんにお任せします。

104-7~104-9 は変寝夢氏によるリパブリカンとレトロの問題。**104-7** と **104-8** の受方持駒は標準駒の「残り全部」ですので、合駒の選択が重要になります。**104-9** は逆算手数が長いですが、双方持駒なしなので逆算の手段は限られます。詰型を先に想定すれば解き易いでしょう。

104-10 は Pontamon 氏の推理将棋。将棋で合法手が最多の局面は **593** の合法手がありますが、それを素材にした推理将棋です。「**593** も合法手がある局面なんて思いつかないよ」という方は、「コンピュータ将棋基礎情報研究所」の「一局面の合法手の最大数が **593** 手であることの証明」(<http://lfics81.techblog.jp/archives/2041940.html>) という記事を参考にしてください。

104-11 は本作品展初登場となる根津将棋名人氏で、ルールはこれまた本誌初登場の「根津詰将棋」です。詰将棋パラダイス8月号の「ちえのわ雑文集」で『根津将棋』の紹介があったのでご存知の方も多いと思いますが、念のためその一部を抜粋します。

ルールは単純で、飛車が一手の間に縦方向と横方向に一回ずつ走る将棋です。それ以外は普通の将棋と同じです。

詳しく説明すると、根津将棋での飛車のことを「根津飛車」と呼ぶのですが、この根津飛車の動きは以下の条件を満たす必要があります。

- ★根津飛車が動くときは、一手のうちに通常の飛車の動きを必ず2回行う。
- ★一回目の移動では縦横に走ることのみ可能で、駒を取ることはできない。
- ★一回目に縦に動いたら二回目は横に動かなければならない。逆も同様。二回目は駒取りができる。
- ★根津飛車を打つ時は打つだけで一手とみなす。一手の間に「根津飛車を打って、その飛車を動かす」のは禁止。
- ★成りは、一手の間に敵陣に入る・出る・敵陣内を移動したときに成ることが出来る。成ると普通の竜に戻る。

たとえば1図では、**55**の根津飛車は以下のように動くことができます。

(1図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				飛			歩		五
									六
				歩					七
						ス			八
									九

持駒なし

◎(53か35を經由して)▲33飛成

◎(35を經由して)▲38飛

一方、以下のような動きはダメです。

×▲53飛成 (2回動いていない)

×25歩を取って▲28飛 (一回目の移動で駒取りはできないから)

×▲39飛 (38と57に駒がいるので、通常の飛車の動きを縦横に一回ずつやっても39に行けないから)

今回の「根津詰将棋」は飛車が「根津飛車」の性能になっている詰将棋です。それ以外は普通の詰将棋と変わりません。

「根津飛車」は、飛車の動きで2度動けるといって古将棋の「鉤行」に似ているのですが、「必ず2回動くこと」や「一回目の移動で駒が取れない」等の制約により、「鉤行」より機能が抑えられています。

果たしてこの駒でいったいどんな作品ができるのか、まずは本局を解いて確かめてみてください。その上で、ルールについての疑問や提案等があれば、ぜひご意見をお寄せください。

解答要項

第 103 回分解答締切:2018 年 9 月 15 日(土)

第 104 回分解答締切:2018 年 10 月 15 日(月)

宛先: k7ro.ts@gmail.com (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載します。)

宛先は解答と同じ k7ro.ts@gmail.com へ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

ルール説明

※WFP のページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule97.pdf>) があるので、それも参考にしてください。

【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【Imitator】(■または I)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

【受先】

受方から指し始める。

【透明駒】

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→詳しいルール説明は WFP83 号「透明駒の紹介」を参照のこと。

【左無限盤】

拡大盤の一種。左方向に無限に広がった盤を使う。

【(m,0)-rider】

左右に m マスずつ跳ねて進む駒。

【覆面駒】

種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。駒種が確定すると通常の駒に戻る。

(補足)

- ・透明駒と異なり所属・位置は判明している。
- ・手順表記上「成」は指定できるが、「生」は指定できない。つまり、移動についての情報と、駒が裏返ったという情報は与えることができる。
- ・初形が合法局面であることが仮定される。つまり、駒の枚数が正しいこと、行き所のない駒や二歩がないこと、(受先形式でない場合) 受方玉に王手が掛かっていないことを推論に含められる。また、特に指定のない限り標準駒数であることも推論に利用できるが、ルールから明らかでない限り双玉・単玉両方の可能性がある。
- ・フェアリー駒を使う作品の場合、特に注釈がなければ通常の駒以外に、初形に存在するフェアリー駒にもなれる。

【リパブリカン】

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。

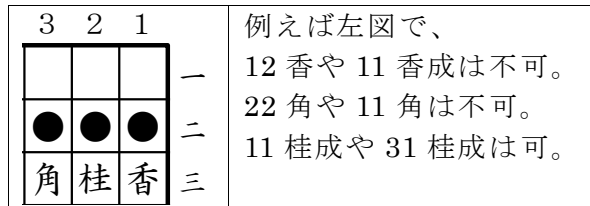
(補足)

- 1) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
- 2) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。
- 3) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。自玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。

【石】(●)

不透過・不可侵の領域を表す。

飛び越すことは可能。



【中立駒】(「▲」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる (利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 白玉への王手は反則。白玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

【レトロ -m+n 手】

m 手逆算して n 手で詰む手順を求める。

(補足)

- 1) 特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 2) 協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数 of 逆算や短い手数の詰手順が成立する場合、それが優先される。

【ボカスカ】

盤上にある同じ所属の同じ種類の駒は、すべて同時に同一方向に動かす。

(補足)

- 1) 成駒と生駒は別種とみなす
- 2) 動かさない駒があれば動かせるだけ動かす。
- 3) 成・不成は 1 枚毎に自由。持駒も同じ種類の駒はすべて同時に打つ。

4) 歩だけは例外で打つのも動くのも単独。

【成禁】

詰手順中に駒を成る手があってはならない。

【トールス盤】

同じ段同士、同じ筋同士が上下左右で繋がった盤を使う。

【Torus-Root-RSA-2048-Leaper】(★)

移動距離が RSA-2048 の正の平方根の八方桂。ただし、盤がまるでトールスであるかのように動き、各利きは盤内にある。

【Torus-Triple-Root-RSA-2048-Leaper】(☆)

移動距離が RSA-2048 の正の平方根の 3 倍の八方桂。ただし、盤がまるでトールスであるかのように動き、各利きは盤内にある。

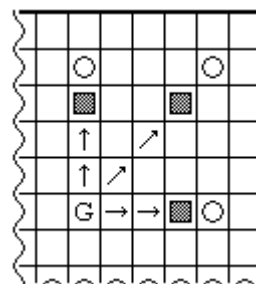
RSA-2048 :

2519590847565789349402718324004839857142
 9282126204032027777137836043662020707595
 5562640185258807844069182906412495150821
 8929855914917618450280848912007284499268
 739280728776735971418347270261896375014
 9718246911650776133798590957000973304597
 4880842840179742910064245869181719511874
 6121515172654632282216869987549182422433
 6372590851418654620435767984233871847744
 4792073993423658482382428119816381501067
 4810451660377306056201619676256133844143
 6038339044149526344321901146575444541784
 2402092461651572335077870774981712577246
 7962926386356373289912154831438167899885
 0404453640235273819513786365643912120103
 97122822120720357

(RSA-2048 出展 : https://en.wikipedia.org/wiki/RSA_numbers)

【Grasshopper】(G)

フェアリーチェスの駒。クィーンの線上で、ある駒を 1 つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



(○が G の利き)

【根津飛車】

飛車が一手の間に縦方向と横方向に一回ずつ走る。

(補足)

- 1) 一回目の移動では縦横に走ることのみ可能で、駒を取ることはできない。
- 2) 一回目に縦に動いたら二回目は横に動かさなければならない。逆も同様。二回目は駒取りができる。
- 3) 根津飛車を打つ時は打つだけで一手とみなす。一手の間に「根津飛車を打って、その飛車を動かす」のは禁止。
- 4) 成りは、一手の間に敵陣に入る・出る・敵陣内を移動したときに成ることが出来る。成ると普通の竜に戻る。



<第 103 回>解答締切:2018 年 9 月 15 日(土)

■ 103-1 Pontamon 氏作

推理将棋『75 角左不成まで 12 手』

「12 手目の 75 角左不成で詰んだよ」

[条件]

- 1) 12 手目の 75 角左不成で詰み

■ 103-2 Pontamon 氏作

推理将棋『角左不成までの 11 手』

「11 手目の角左不成の手で詰んだよ」

「4 手目は銀だったね」

「不成の手は 2 回連続だったよ」

[条件]

- 1) 11 手目の角左不成で詰んだ
- 2) 4 手目は銀
- 3) 不成の手は 2 回連続(※注)だった
(3 回連続はNG)

※注

同じ手番側が連続で不成の着手をしたという意味であり、相手の不成に不成で応じたわけではない。

■ 103-3 たくぼん氏作

協力自玉詰 70 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
										五
と	と	と	と	と	歩	と	と	歩		六
歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩			七
王			桂		桂			歩		八
		桂		桂				王		九

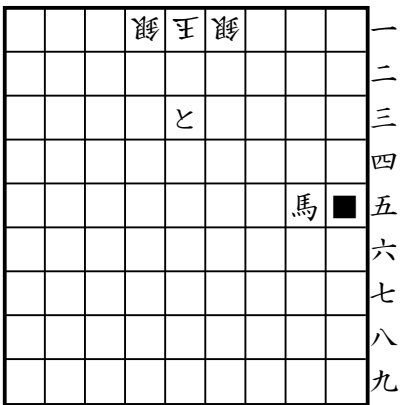
攻方持駒 飛

受方持駒 角

■ 103-4 占魚亭氏作

協力詰 3手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



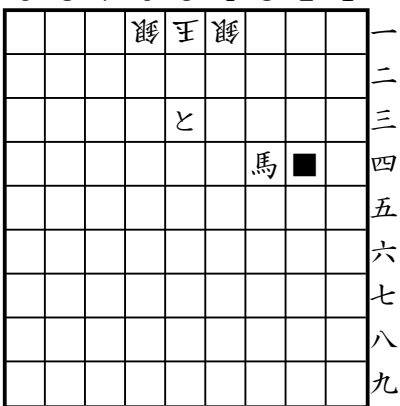
持駒 銀

※黒駒: Imitator

■ 103-5 占魚亭氏作

協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



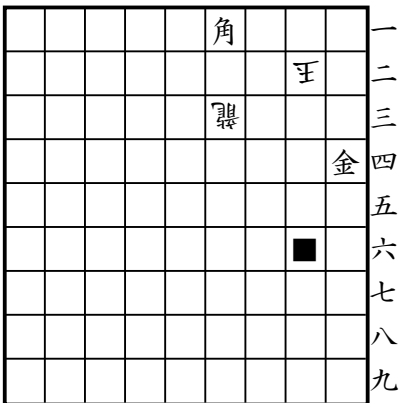
持駒 なし

※黒駒: Imitator

■ 103-6 占魚亭氏作

協力詰 4手 ※受先

9 8 7 6 5 4 3 2 1



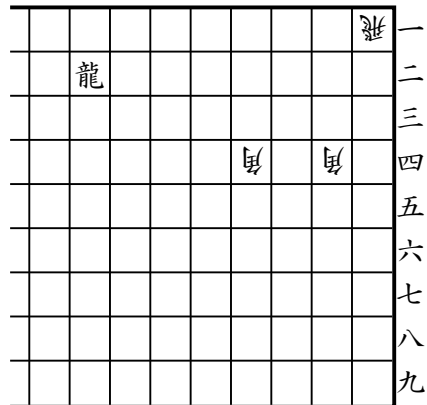
持駒 角

※黒駒: Imitator

■ 103-7 青木裕一氏作

左無限盤最善詰 3手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 桂▲

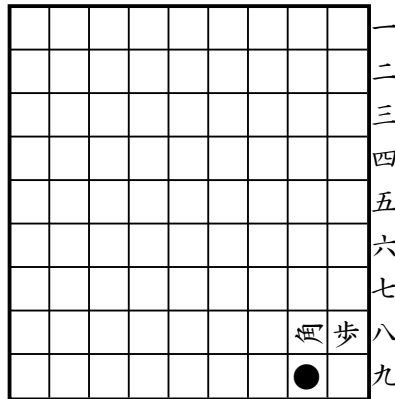
※透明駒: 攻方0枚 受方1枚

▲: 覆面(m,0)-rider(m≥2)

■ 103-8 変寝夢氏作

リパブリカン協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



攻方持駒 なし

受方持駒 なし

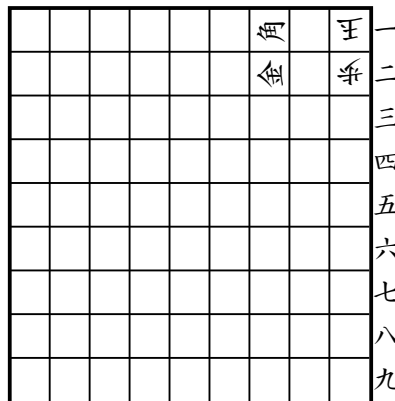
※28角は中立駒

●: 石 (着手不可、不透過)

■ 103-9 変寝夢氏作

レトロ協力詰 -4+1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



攻方持駒 なし

受方持駒 なし

※31角、32金は中立駒

■ 103-10 変寝夢氏作

ボカスカ協力白玉詰 4手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
									二
									三
			王						四
								煙	五
			角						六
									七
							龍		八
								龍	九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし
※25角、66角は中立駒

■ 103-11 はなさかしろう氏作

変則推理将棋

『入れ替え作業のあっけない幕切れ その2』

「さっきの将棋、途中までしか見られなかったんだけど、その後どうなった？」
「どこまで見てたの？」

①

「先手番で、初形配置から一对の駒の位置を入れ替えただけの状態になったところまでだよ」
「ああ、それなら、その後2手で詰んだよ」
「なるほど。手間の割にあっけない幕切れだったね」

[条件]

- ・初形配置から一对の駒の位置を入れ替えただけの先手番局面から2手で詰んだ

②

「先手番で、初形配置から二対の駒の位置を入れ替えただけの状態になったところまでだよ」
「ああ、それなら、その後1手で詰んだよ」
「なるほど。先手玉にも詰めろがかかっていたから、まあそうなるかな」

[条件]

- ・初形配置から二対の駒の位置を入れ替えただけで、先後双方に詰めろがかかっている先手番局面から1手で詰んだ（詰手順は複数）

③

「先手番で、初形配置から二対の駒の位置を入れ替えただけの状態になったところまでだよ」
「ああ、それなら、その後1手で詰んだよ」
「なるほど。唯一の詰め手順を決めたわけだね」

[条件]

- ・初形配置から二対の駒の位置を入れ替えただけで、詰め手順が唯一である先手番局面から1手で詰んだ

④

「先手番で、初形配置から先手陣内での二対の駒の位置と、後手陣内での一对の駒の位置を入れ替えただけの状態になったところまでだよ。そういえば、自身と同種の駒の利きマスにある駒があったのが珍しかったな」
「ああ、同種駒のひもがついていた駒があったってことだね。確かに初形配置ではそういう駒は無いからなあ。それで結局は、その後1手で詰んだよ」

[条件]

- ・初形配置から先手陣内の二対の駒の位置と、後手陣内の一对の駒の位置を入れ替えただけで、同種駒のひもがついている駒がある先手番局面から1手で詰んだ

⑤

「先手番で、初形配置から先手陣内での一对の駒の位置と、後手陣内での二対の駒の位置を入れ替えただけの状態になったところまでだよ」
「ああ、それなら、その後1手で詰んだよ」
「いやあまったく、手間の割にあっけない幕切ればかりだったね」

[条件]

- ・初形配置から先手陣内の一对の駒の位置と、後手陣内の二対の駒の位置を入れ替えただけの先手番局面から1手で詰んだ

①～⑤それぞれについて、入れ替わった駒と入れ替え局面からの詰め手順を推理してください。
なお、②のみ詰め手順が複数あります。

■ 103-sp 神無太郎氏作
成禁協力白玉詰 10手

8 7 6 5 4 3 2 1

								一
	☆				歩			二
								三
								四
								五
					★			六
								七
								八

持駒 飛2香

※★:攻方Torus-Root-RSA-2048-Leaper 王

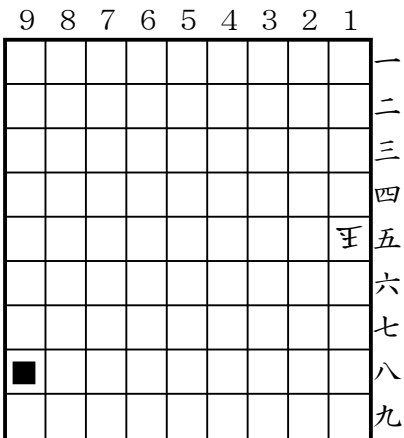
☆:受方Torus-Triple-Root-RSA-2048-Leaper 王



<第 104 回>解答締切:2018 年 10 月 15 日(月)

■ 104-1 神無太郎氏作

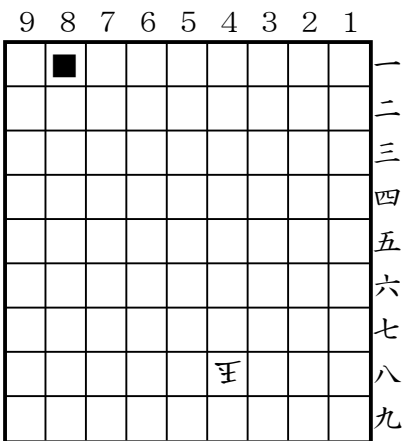
協力詰 7手



持駒 金銀
※■:Imitator

■ 104-2 神無太郎氏作

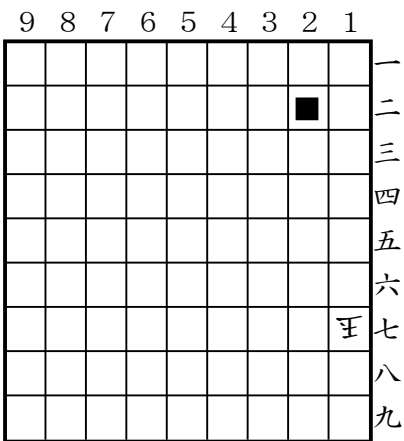
協力詰 7手



持駒 金2
※■:Imitator

■ 104-3 神無太郎氏作

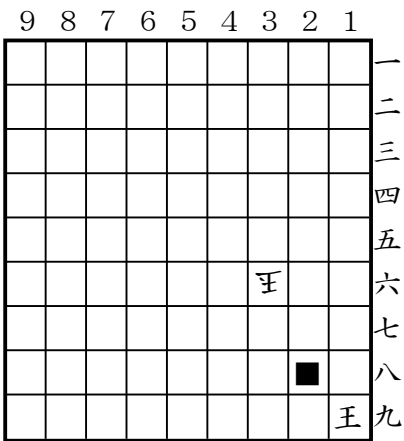
協力詰 7手



持駒 金2
※■:Imitator

■ 104-4 占魚亭氏作

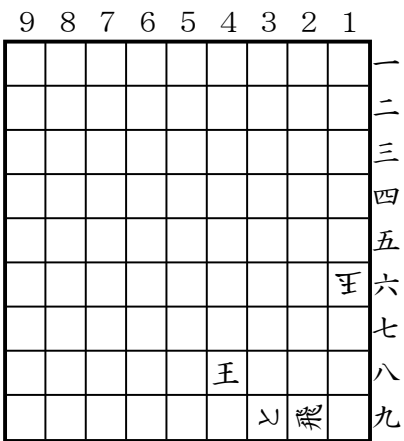
協力自玉詰 5手 ※受先



持駒 桂
※■:Imitator

■ 104-5 占魚亭氏作

協力自玉詰 6手



持駒 n角
※双方の玉以外はすべて中立駒



■ 104-6 はなさかしろう氏作

推理将棋

『入れ替え作業のあっけない幕切れ その3』

「さっきの将棋、26手で詰んだんだけど」
 「うん」
 「詰め上がりで、初形から二対4枚の駒が位置を交換していて、その他の36枚はそれぞれ初形の位置にいたんだ」
 「ええと、ちょっと待ってね。二対4枚の駒の位置の交換というのは、A、B、C、Dの4枚について、AがBの初形位置に、BがAの初形位置に配置され、CがDの初形位置に、DがCの初形位置に配置された、ということで良い？」
 「そう。A→B→C→D→Aみたいな位置の循環ではなく、1対1の交換が二対だったよ」
 「ふむ。それならもう一つ確認だけど、詰め上がりでその他の36枚は、局面として初形配置と同じだった、ということ？」
 「局面が同一なだけではないんだ。局面だと同種駒のすり替わりは同一とみなされるけれど、さっきの将棋では、木片としての個々の駒が物理的に元の位置にいたんだよ」
 「なるほど、最終的に入れ替わらなかった駒は動いたとしても最初の位置に戻ったんだね。それなら、入れ替わった駒と、20手目から最終26手目までの棋譜はわかったよ」

[条件]

- 1) 26手で詰んだ
- 2) 詰め上がりは初形から二対(AとB、CとD)の駒がそれぞれ位置を交換しただけで、他の36枚は初形と同じ位置にいた

※位置を交換した二対の駒と、20～26手目の棋譜を推理してください。



■ 104-7 変寝夢氏作

リパブリカン協力白玉詰 4手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							角	玉	一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛香

■ 104-8 変寝夢氏作

リパブリカン協力白玉詰 4手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							玉		一
									二
									三
									四
									五
							香		六
									七
									八
									九

持駒 香G

※G:Grasshopper

■ 104-9 変寝夢氏作

レトロ協力詰 -8+1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
							麩	銀	二
									三
							玉	銀	四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

■ 104-10 Pontamon 氏作

推理将棋『593の合法手がある局面 61手』

「先手のP氏が長考していますが、どうしたのでしょうか？」
 「この61手目の局面では593種の指し手がありますからね」
 「何か動きがあったようです。61手目、11回目の王手で詰みましたね」
 「今の対局を振り返ってみましょう。後手は12連続、先手は飛の9連続を含む17回連続で駒を取りました」
 「先手の飛の着手は1～8マス移動のうち6マス移動だけが無く、3マス移動以上は1回ずつでしたね」
 「銀着手の3手後に銀の着手をすることが3回ありました」
 「3回の着手があった地点は無かったですね」

[条件]

- 1) 593種の着手が可能だった61手目に11回目の王手で詰んだ
- 2) 後手は12連続、先手は飛の9連続を含む17回連続で駒を取った
- 3) 先手の飛移動は6マス移動だけが無く、3マス移動以上は1回ずつ
- 4) 銀着手の3手後の銀着手が3回
- 5) 3回着手地点は無い

■ 104-11 根津将棋名人氏作
 根津詰将棋 21手

									銀	皇	一
									糸	飛	二
								王		王	三
										銀	四
											五
											六
											七
											八
將											九

持駒 歩3

以上

「第49回神無一族の氾濫」投稿作品募集

「第49回神無一族の氾濫」への参加を募ります。

今回のお題は「理論上の上限・下限」です。
 煙詰は盤上の36枚の駒を消すために、最短手数
 が73手となります。

協力自玉スタイルメイトでよく見られる「連続ですべての持駒を捨てる」作品は、最短手数が「持駒数×2」となります。

このように、自然に手数や駒数等の限界値が決まるような主題を設定し、その限界値を満たす作品を募集します。

主題の設定は自由ですが、できれば普通詰将棋と同様の主題を実現した場合は、限界値が異なる主題を歓迎します。

例) 盤上最長距離の往復

一つの攻方駒が最長距離(11と99または91と19)を直接往復する手順は、普通詰将棋だと15手掛かるが、安南詰だと3手で済む。

また、1題通常の協力詰(ばか詰)を募集します。今回のお題に該当する作品であれば、優先して採用します。

作品要件	理論上の上限・下限
募集締切	2018年10月14日(日)
募集作品数	4 + 1 (ばか詰枠)
送り先	神無七郎 (k7ro.ts@gmail.com) 上記宛先へ E-mail でお送りください。
備考	1人何作でも投稿可。 採否は10月21日までに通知します。

Fairy of the Forest #56 出題

- 2018年06月20日:課題発表:(協力詰)
「自由課題」
- 2018年07月15日:投稿締切
- 2018年08月15日:投稿再締切
- 2018年08月20日:出題
- 2018年09月15日:解答締切
- 2018年09月20日:結果発表

■ 出題

窮状を見かねた、たくぼん氏から久しぶりに2作投稿がありました。たくぼん氏に感謝。もう1作は七郎氏。これもまた感謝。

03は非標準駒数の作品で、「受方持駒なし」です。解図の際はご注意ください。1題でも解けた方はご解答をお寄せください。

(解答先)
→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

■ 56-01 たくぼん 協力詰 35手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
					馬		馬	銀	五
					馬	全	銀	皇	六
				馬					七
				角	駒	歩	桂		八
				飛	金	歩	王		九

持駒 飛

■ 56-02 たくぼん 協力詰 45手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						香	歩	香	二
				玉					三
							桂	王	四
					又				五
					又	桂		桂	六
					歩				七
					又		桂		八
					又		歩	金	九

持駒 香

■ 56-03 神無七郎 協力詰 47手 (非標準駒数)

持駒: なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
						王		馬	五
					桂	桂	馬	桂	六
					馬		馬		七
					桂	桂		桂	八
									九

持駒 桂19

フェアリー版くるくる作品展 8 解答

久しぶりのフェアリー版くるくる作品展です。毎回難易度がくるくる級ではない！とお叱りを受ける場合が多かったのですが、今回は皆さん納得して頂けたようでホッとしています。今回の作品を大まかな基準としてまた投稿頂けると嬉しいです。

しかしながら解答者は3名とさびしい結果となりました。

くるくる 14 神無太郎作

協力詰 5手

持駒 飛角2金4銀4桂4香4歩15 Q3

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
			歩	飛	歩				四
				○					五
				王					六
									七
									八
									九

持駒 歩

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【Queen】(Q)

チェスの Queen。飛車と角を合わせた性能を持つ。

↖		↑		↗
	↖	↑	↗	
←	←	Q	→	→
	↙	↓	↘	
↙		↓	↘	

(矢印がQの走る方向)

55 飛 同玉 56 歩 54 玉 55 Q 迄 5手

作者

「T」→「Y」→「Y」→「T」の多段曲詰のつもりです。

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
			歩	王	歩				四
				Q					五
				歩					六
									七
									八
									九

持駒 なし

★作者の狙いは、「T」→「Y」→「Y」→「T」の4段曲詰という作品。作者の狙いは解答者に届くや否や？橋本氏と井上氏は「T」から「T」への立体曲詰と判断。縫田氏は「T→Y→v→Y→T」の五段曲詰と判断。2手目終了後の「v」を作者は認識していないようです。どちらにせよ回文なっていますので、回文多段曲詰とでもいみましょうか。

橋本孝治

真っ先に浮かんだ筋は「55 飛 47 玉 48 歩 46 玉 35 Q」。二枚の歩は余詰防止を兼ねているんですね。2手目にあっさり飛を取る作意は意外です。狙いは「T」から「T」への立体曲詰でしょうか。

★この順は48歩が二歩となるんですね。

縫田光司

「T→Y→v→Y→T」の五段曲詰、と強弁してみます。(折角なので4手目の局面も何かこじつけられませんかね…。)

井上順一

初形と詰上りが同じ[T]の字。後手は2手しか指せないのも持駒のQは2枚でいいのでは？

くるくる15 神無太郎作

協力白玉スタイルメイト 32手

持駒 角金3銀4歩13

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				馬				王	一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛2角桂4香4歩5

★本作は初形や持駒を見てビビる人も出てきそうですが、持駒の数と手数の関係でとにかく持駒を捨てていけばよいことに気付きます。今回11騎が不動という大ヒントを見つけましたので持駒を金に取って頂きましょう。

41 飛 同金 31 飛 同金 22 角 同玉 12 歩 同金
23 桂 同金 13 香 同金 12 歩 同金 23 桂 同金
13 香 同金 12 歩 同金 23 桂 同金 13 香 同金
12 歩 同金 23 桂 同金 13 香 同金 12 歩 同金
迄 32手

★頭6手で大駒を捨て切り、金を11騎の近くに呼んできます。その後は桂香歩を使ってぐるぐる金を回す趣向となります。難しさもなく楽しめる手順です。11騎不動のヒントがないと取らせ駒が2つになり難易度が格段に上がってしまいます。いいヒントだったと思います。

橋本孝治

「不動玉」が大ヒント。これがなければ、騎王を動かす手をどこに入れるか悩んでいたでしょう。ただ、駒を零((0,0)-Leaper)にしておけば、このヒントすら不要だと思うのですが、なぜ駒なのでしょう？

持駒を連続ですべて取らせる協力白玉スタイルメイトの手数上限は78手(39×2)を越えないことは明らかですが、本局のように受方玉を「不動王」とした場合、最大何手まで連続捨駒が可能なのかが興味深い命題ですね。

★たしかに零にするというのは良い方法だと思いますね。それと玉不動で最大何手まで連続捨駒が可能かというのは面白い課題に出来そうですね。今度やってみましょうか？

縫田光司

爽快な軽趣向ですね。ところで、11が玉(や他の前に利く駒)だと最終手同玉の非限定が生じるのはわかるのですが、11が角だと余詰があったりするのでしょうか？

★11が角だと。3手目22角に同角とし、32飛、同金以下作意同様の順が可能となります。

井上順一

桂香歩を如何に消すかだと思ったが、シンプルな機構で実現している。

総評

橋本孝治

「氾濫48」の結果稿作成を優先したので、ちょっと解答を出すのが遅くなりました。今回はヒントのおかげで「くるくる」の範囲に収まっていると思います。

井上順一

今回はくるくるの名にふさわしいと思います。

★ 解答者にくるくるに相応しいと言われてよかったです。作品も随時募集中です。投稿よろしくお願ひします。

第102回WFP作品展結果

担当：神無七郎

第102回WFP作品展の結果を報告します。

今回の出題は全14題（実質15題）。解答者数は13名。全題正解者1名。解答の内訳は以下の通りです。

〔第102回WFP作品展成績〕（敬称略）

○：正解 ×：誤解 -：無解

解答者名	1	2	3	4	5	6	7	8	9a	9b	10	11	12	13	14	計
根津将棋名人	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	15
はなさかしろう	○	○	-	-	-	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	11
たくぼん	○	-	○	○	-	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	11
占魚亭	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	○	-	9
青木裕一	-	-	○	-	-	○	-	-	○	○	○	○	○	○	○	9
縫田光司	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	9
一乗谷酔象	○	○	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	○	○	○	8
井上順一	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	7
変寝夢	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	○	○	○	5
神在月生	○	○	○	×	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	×	4
林石	-	-	×	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	3
詰ガエル	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	○	-	-	3
Pontamon	○	○	×	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

今回の解答は盛況で、初解答の方が2名。根津将棋名人氏と、神在月生氏です。しかも根津将棋名人氏は全題正解の快挙です。

作品の方は**102-11**に余詰発生、作意解なしという残念な結果になりました。また**102-1**や**102-2**は出題後に余詰が見つかり差し替えが行われています。作家の皆さんには、投稿を急がず、事前に入念な検討を行ってくださるよう改めてお願いします。

■ 102-1 Pontamon 氏作（正解6名）

推理将棋『飛頭と飛尻への着手（その1）』

「さっきの、不成なしで12手目の初の角成で詰んだ対局だけど、相手の飛頭への着手があったね」
「それと先手も後手も、自分の飛尻への着手は相

【条件】

- 1) 不成なしで 12 手目の初の角成で詰んだ
- 2) 先手も後手も、自分の飛尻への着手は相手の飛の着手の直後だった
- 3) 相手の飛頭への着手があった

【ルール】

• 推理将棋

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【解答】

76 歩 84 歩 66 角 83 飛 84 角 同飛
58 飛 83 角 48 玉 44 飛 59 金左 47 角成
まで 12 手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	
二								馬		
三	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
四					飛					
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	金	歩	歩	歩	
八				飛	玉					
九	香	桂	銀		金	金	銀	桂	香	

持駒 歩

【作者のコメント】

詰将棋パラダイス 5 月号の推理将棋で出題された 12 手作りにあった飛尻着手の条件を使った 2 問です。

着手場所「頭」「尻」「脇」の対象となる駒は玉が多いようです。「尻」の使用が多くはない中で対象駒が飛だとかなり珍しい条件だと思います。初期配置のままの飛の飛尻へ自力で着手するには最低で 4 手かかるし、飛の移動があっても 3 手かかります。この手数がかかる飛尻着手を先手も後手も実行しなければいけないとなると、飛尻着手に関係する着手を無駄手に使うと 12 手では手数が足りなさそうです。

先手は、飛を振る手、飛尻の空間を作る手、飛尻への着手の 3 手全てが詰み形に関与する着手になれば効率的です。

後手は、飛の着手が無駄にならないように飛

での攻めを採用するのが良さそうです。

(102-1 について)

角成で詰みだとわかっているのに、飛を支えにして最有力なのは 57 角成、次は 37 とか 77 に跳ねている桂を取っての角成や 48 や 68 での角成なら後手の角筋なのでできそう。先手の角を取って、それを打ってから成るのでは 3 手かかってしまうので、手数がかかる飛尻の着手をするのが難しくなりそうだと考え易い。ところが、条件をクリアするための着手を兼用すると手数を減らすことができます。

飛の移動と角取りを兼用、飛尻の着手を角打ちで兼用します。

飛頭への着手条件は、2 手目と 4 手目の手順前後と 2 手目 84 歩の時の 4 手目非限定を一挙に解決するための条件でした。

【解説】

本局と次局のキーワードは「飛尻」、しかも相手の飛ではなく自分の飛の後ろへ着手せよという条件が付いています。

将棋では自分の飛の後ろに駒を動かすことはあまりありません。むしろ飛は後ろから睨みを利かし、先行する駒を取られないよう支えることが多いのです。実際、本局の詰上りでも詰駒である 47 馬を 44 飛が支えています。「飛尻」の着手は「不自然」なので、推理将棋で手順を限定するには都合が良いのです。

本局では双方に「飛尻」の着手が課せられていますが、それがどこで登場しているか確認しましょう。

後手の「飛尻」は 8 手目 83 角です。

この角は先手玉を詰めるとどめの角ですが、「飛尻」の条件がないと、打つ場所と時期が非限定になります。

一方、先手の「飛尻」は 11 手目 59 金左です。これは自玉の退路を塞ぐ手で、代わりに 59 飛とする非限定を防いでいます。

意味付けとして面白いのは後手の「飛尻」の 83 角の方ですが、この前準備の手順を限定するために「飛頭」の条件を使っているのが巧妙で、これにより前半は玉から遠い 8 筋に着手が集中します。飛を振って、舞台が一気に変わる後半との対比が鮮やかですね。

本局と次局は当初の出題で余詰があり（一乗

谷酔象氏による指摘)、差し替えを行っています
(「詰将棋担当業務用」ブログ、5月24日の記事
を参照してください：<http://k7ro.sblo.jp/article/183302027.html>)。

また、その次の記事 (<http://k7ro.sblo.jp/article/183334881.html>) で告知した通り、本作品展
では今後余詰や不詰など作品の不備を理由とした
出題の差し替えは行いません。詰将棋パラ
ダイス誌と同様、作品に不備があった場合は結果
稿で報告し、修正図等も結果稿に掲載すること
とします。

作家の皆さんには今一度、投稿の際に事前の
検討を徹底していただくようお願いします。

【短評】

一乗谷酔象さん

飛頭に誘導する 83 飛が妙な手。
続く 83 角で狙いを定める。

根津将棋名人さん

解図にかなり時間がかかりました。
後手の 6 手は「34 歩、飛車の移動、飛車の尻
に着手、角成 + 角成に紐をつける 2 手」だと
絞って考えていて、2 番のように飛車を活用
するのは不可能だと思い込んでいました。
66 角から歩を食いちぎる筋は絶妙ですね。
勉強になりました。

はなさかしろうさん

玉方 3 段目に飛角の利きを集中させる詰みは
(最短 9 手でしょうか) 12 手ではむしろ狙い
に行きにくく、結構時間がかかってしまいま
した。

神在月生さん

最終角成ということから七段目に照準の 83
角に惹かれ、まずこの序を選択してみる。
残り 6 手での(飛～飛尻)×2 に先行き不安も、
47 に照準の 44 飛とそれに対応する 48 玉が
芋蔓式に浮かびニッコリ。

たくぼんさん (※差替前の条件での解答)

非限定があるということは余詰でしょうか。

☆たくぼん氏は「76 歩 32 飛 33 角生 同飛 68
銀 37 飛生 58 飛 36 角 48 王 27 飛生 59 銀
(59 金左) 47 角成」の解答です。最初は 102-

2 と間違えたのかと思いましたが、差し替え
前の条件での解答だったようです(従って正
解として扱います)。ちなみに当初の条件は
以下の通りでした。

【条件】

- 1) 12 手目の角成で詰んだ
- 2) 先手も後手も、自分の飛尻への着手は相手
の飛の着手の直後だった
- 3) 相手の飛頭への着手があった

☆修正後の条件では 1) に「不成なし」という文
言が加えられています。たった一句ですが、
内容的には大きな条件追加であることが、た
くぼん氏の解答から分かります。

■ 102-2 Pontamon 氏作 (正解 5 名)

推理将棋『飛頭と飛尻への着手 (その 2)』

「さっきの、駒成なしで 12 手目の両王手で詰んだ
対局だけど、相手の飛頭への駒打ちがあったね」
「それと先手も後手も、自分の飛尻への着手は相
手の飛の着手の直後だったね」

【条件】

- 1) 駒成なしで 12 手目の両王手で詰んだ
- 2) 先手も後手も、自分の飛尻への着手は相手の
飛の着手の直後だった
- 3) 相手の飛頭への駒打ちがあった

【解答】

76 歩 32 飛 33 角生 同飛 78 金 37 飛生
68 飛 36 角 38 歩 47 飛生 69 玉 49 飛生
まで 12 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	季	王	季	爵	科	皇	一
							馬		二
糸	糸	糸	糸	糸	糸		糸	糸	三
									四
									五
		歩				馬			六
歩	歩		歩	歩			歩	歩	七
		金	飛			歩			八
香	桂	銀	玉		遊	銀	桂	香	九

持駒 なし

【作者のコメント】

駒成なしで詰みなので、飛を使った攻めと言っても、合い利かずの間龍にはできないので、飛を支えに金駒を打つとか、8段目の飛と7段目の桂での吊るし桂、玉の小鬢を他の駒で抑えての1間飛やピンメイトなどがありそうです。

普通に考えてどれもダメなら、疑うべきは両王手。

飛頭への▲38歩は、非限定を限定するための条件ですが、この条件があるので序の△32飛、▲33角生、△同飛が見え易いかもしれません。

【解説】

推理将棋で後手の飛を早く使いたい場合、定番の手順があります。初手から「76歩 32飛 33角 同飛」と進めることで、3筋から飛を活用することができるのです。

この後、そのまま3筋を37→39の順に突破して詰めるパターンが多いのですが、本局は「飛尻」の条件により、違った展開が現れます。

前局と同様、後手は先手から貰った角を「飛尻」に打つのですが、この角筋を使って両王手を掛けるため、先手は居玉ではなく、6筋に寄って両王手に掛かりに行きます。

「飛尻」の条件は先手にも適用されるので、移動の順序は飛が先で玉が後、更に「飛頭への駒打ち」の条件を満たすため、飛の移動は歩打より先になり、68飛→38歩→69玉の順番が決まります。

全体的に見ると、「両王手」の想定が正しくできるかどうか、解図の最大の鍵になっていると思います。

本局は二度の修正を経て（余詰指摘はいずれも一乗谷酔象氏）現在の条件設定になっている

のですが、当初の条件設定を振り返ってみましょう。

【条件】

- 1) 駒成なしの12手で詰んだ
- 2) 先手も後手も、自分の飛尻への着手は相手の飛の着手の直後だった
- 3) 相手の飛頭への着手が2回あった

3)の条件にも変更がありますが、1)に「両王手」の条件を加えたのが最大の変更点。これが条件として表面に出てしまったため、意外性が失われたのが残念です。

【短評】

一乗谷酔象さん

38歩打がぴったり。

☆一乗谷氏は二度の余詰指摘に加え作意解も含めた双方解。お見事です。

根津将棋名人さん

初めの4手はすぐに見えましたが、15角+37飛+36角の形を中心に考えていたので解くのに少し時間がかかりました。

はなさかしろうさん

雰囲気ある詰め上がり。38歩は条件に組み込まれた待ち手ですが、102-1の83飛よりは読みやすかったです。

神在月生さん

両王手ということからとりあえず22角・33飛の形にしてみる。

このバッテリーは使い物にならずもあきらめずに、玉移動に手数を要しない下段玉での両王手局面を模索。

そこでその後の飛尻角～飛移動によるバッテリー構築と3筋への歩打ちに思い至りニコリ。

Pontamonさん

余詰だけでは治まらず、修正条件でも余詰んでしまい申し訳ありませんでした。

再修正では「最終手は9段目」も考えたのですが、再修正で余詰んでは引退の文字も浮かんで来るので安全策で両王手を明かしました。

☆個人的な意見ですが、余詰の遠因は **102-1** とツインにしようとした所にもあると思います。無理に条件設定を似せようとせず、本局だけに最適な条件を追求していれば、「両王手」というネタバレを回避する条件設定を発見できたかもしれません。それに、ツインにしたせいで、検討量が半分になるという弊害もあったと思います。

たくぼんさん (※無解)

解けません。15 角・37 飛～57 飛/59 王かなと思ったけど構築できません。

■ **102-3** 占魚亭氏作 (正解 5 名)

協力詰 4手 ※受先

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
					角				二
						銀			三
					■				四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛
※■:Imitator

【ルール】

- **協力詰**
先後協力して最短手数で受方玉を詰める。
- **受先**
受方から指し始める。
- **Imitator** (■またはI)
着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

【解答】

22 玉[I46] 12 飛 11 玉[I35] 21 角成[I24] まで 4 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							馬	王	一
								飛	二
									三
						銀	■		四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

「Imitator は盤端に」に捕られると、難しく感じるかもしれません。

【解説】

受先の条件と 34 馬の配置により、いやでも派手な初手を期待してしまう初形。

しかし、初手 78 馬[I79]という「それらしい手」を指しても後が続きません。以下、

21 角成[I68] 58 X 13 飛 12 X 同飛成[I67]

という手順は手数オーバーです。

ただ、この手順を読むと「21 角成」が決め手になる雰囲気を感じることができるでしょう。更に「21 角成」を両王手にする発想が浮かべば、貴方はもう Imitator のエキスパートです。

しかし、両王手を目指す初手は「22 玉」。何と地味な手でしょう！

この手の狙いは 2 手後に判明します。以下、「12 飛 11 玉」と玉を戻せば、あら不思議。初形に 12 飛だけが追加された形が出現しました。この 3 手一組で飛を盤上に発生させるトリックが本局の狙いだったのです。

この形を作ってしまうえば後は当初の狙い通り 21 角成の両王手で終幕です。

ところで、34 馬はなぜ馬なのでしょう？

実は真下に引けさえすれば良いので、34 馬は 34 金でも構いません。

真下に引けない駒、例えば 34 銀だと、次の余

詰があります。

12 玉[I36] 13 飛 11 玉[I35] 21 角成[I24] まで

34 が馬や金なら、この手順の最終手に対し「33 馬 (または金) [I23]」という Imitator 特有の受けで逃れることができます。Imitator がある詰将棋では両王手も万能ではないのです。

では、34 馬の代わりに 34 飛の配置だとどうなるでしょう？

実は作意が不詰になってしまいます。作意の最終手に対し「32 飛[I22]」という逃れが生じるのです。ということは、34 馬の代わりに 34 飛とすると不詰なのでしょうか？

いいえ。この場合は別の手順が成立します。それが次の 102-4 です。早速どんな手順か見に行きましょう。

【短評】

林石さん (※誤解)

誤解から数日後、ふとした拍子に手順が降ってきました。102-4 と最終手は共通ですが、こちらは両王手で好対照。13 飛を出現させる玉の往復が鍵ですね。

☆林石氏は初手から「12 玉[I36] 13 飛 …」とする筋での解答でした。解説でも触れた通り、13 飛型は最終手に 33 馬[I23]と受けられます。

変寝夢さん (※無解)

3 手目が初形から 1 2 飛を打った状態になる。受先な訳ですね。

根津将棋名人さん

玉を動かすなら 21 玉と指してしまいたい形のように感じられたので、22 玉は少し見えづらかったです。

神在月生さん

どう考えても ■102-4 と同じ解になる。
34 馬と 34 飛の違いに何の意味もない。
何を間違っているのか？ (泣)

☆神在月生氏は 102-4 との違いに悩みながらも、とりあえず本局は正解でした。

Pontamon さん (※誤解)

受先作品の解答は初めて。

王手が掛かっている状態ではないので、受方自ら退路を塞ぐための駒打ちもあるとは思ったものの、次の手で王手を掛け易いように指してみたら、解が複数手順があるみたいなので、協力詰のルールを誤解しているのか…。

△22 玉(I46)▲12 飛△11 玉(I35)▲21 角成(I24)

協力詰なので、3 手目を△12 同馬とする必要はないと解釈しました。△11 玉なら Imitator があるので飛の王手が外れる。

2 手目の▲12 飛の王手以外に、▲23~29 飛での王手で 3 手目△11 玉(I35)も可。

△12 玉(I36)▲22 飛△11 玉(I35)▲21 角成(I24)

初手△12 玉(I36)なら 2 手目の飛での王手が限定されるので、△11 玉にする同じ筋でも解は 1 つに限定されるみたい。

「協力詰 4 手 ※受先」ではなく「強欲協力詰 4 手 ※受先」なら、こちらの手順で限定されるのかな。

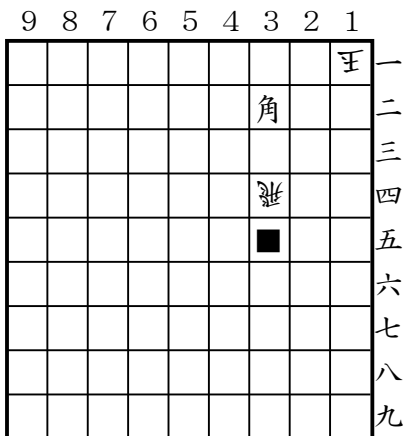
☆「12 玉 22 飛」以下の手順だと、最終手に対し 14 に駒を打つ受けがあるので詰んでいません。作意も書かれているので迷ったのですが、両王手の必要性が読めていなかったようなので、誤解としました。

たくぼんさん

初形に 12 飛が現れる不思議な手順。

■ 102-4 占魚亭氏作（正解4名）

協力詰 4手 ※受先

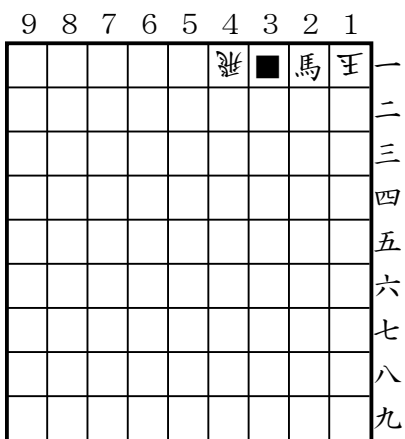


持駒 飛
※■:Imitator

【解答】

44 飛[I45] 41 飛 同飛[I42] 21 角成[I31]
まで 4手

(詰上り)



持駒 なし

【作者のコメント】

打ち捨ててを入れてみました。

【解説】

前局と同じ手順では、最終手に 32 飛[I22]とされて詰まない本局。

「Imitator は盤端に」という格言に従って 14 飛[I15]とすると、王手すら掛からなくなってしまいます。

では「今度こそ大技だ!」とばかりに、94 飛[I95]とするのはどうでしょう?

これもまあ、詰むことは詰むのですが、手数オーバーになります。

例えばこんな手順です。

91 飛 41 X 同飛[I45] 91 飛[I42] 21 角成[I31]

これはいわゆる「影挟」の手筋です。Imitator を2つの駒で挟むと、その直線方向に動けなくなることを利用するのです。

「影挟」の手筋に気づけば正解はすぐ目の前です。上記の手順では、Imitator を遠くに運んでから4筋に引き戻すという(解説用の)間抜けな手順を選んでいましたが、Imitator が最初から4筋にあればその必要はありません。そう、初手は 44 飛[I45]です。

ただ、この手順は 41 飛が捨駒になります。単騎詰になるため心理的不利感は大きく、とても効果的ですね。

本局は「影挟」の形を作るため、飛が一つだけ横に寄る奥ゆかしい初手が印象に残ります。これは普通詰将棋でよく見られる「香の一目上がり」と似た味わいです。大きく動ける駒を、敢えて小さく使う。そんな妙手はフェアリーにも数多く眠っているはずですよ。

【短評】

林石さん

壁駒を打たせない単王手の詰め上がり。さらに駒を取られないために玉方飛を利用します。純粋な詰方の駒一枚で詰むのはやはり不思議な感じ。

変寝夢さん(※無解)

3手なら解けたかも。

根津将棋名人さん

駒が横一直線に並ぶキレイな詰め上がり。

神在月生さん(※誤解)

どう考えても■102-3と同じ解になる。34馬と34飛の違いに何の意味もない。何を間違っているのか?(泣)

Pontamonさん(※誤解)

102-3との違いは34の駒が馬から飛に代わっていること。102-3の解答手順への影響は何もないので、そのまま当てはまるのでは?

△12玉(I36)

▲22飛

- △11 玉(I35)
- ▲21 角成(I24)
- や
- △22 玉(I46)
- ▲12 飛
- △11 玉(I35)
- ▲21 角成(I24)

☆神在月生氏は **102-3** と同手順での解答でした。解説でも触れた通り、**102-3** と同じ手順では最終手に **32 飛[I22]** で逃れとなります。Pontamon 氏の解も同様に不詰です。

たくぼんさん

41 飛～同飛が盲点になる手順。

■ 102-5 占魚亭氏作 (正解 2 名) ※実質 1 名!

AntiAndernach協力詰 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
								王		四
					王					五
										六
		■								七
										八
										九

持駒 香
※■:Imitator

【ルール】

• AntiAndernach

駒を取らない盤上の移動（駒を取る及び持駒を打つ以外の着手）を行うと、着手後に相手の駒となる（玉を除く）。

(補足)

- 1)駒を取らない盤上の移動で二歩になる場合相手の駒にならない
- 2)駒の向きの転換は成生の選択の後に行われ、成生の選択権は駒を取った側にある
- 3)駒を取らない盤上の移動の場合に限り、8段目への桂の不成、9段目への桂香歩の不成が可能（二歩の例外を除く）

【解答】

49 香 48 飛 同香[I76] 74 桂
65 飛 66 桂転[I68] 15 王[I59] まで 7手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
			飛		王			王		五
			桂							六
										七
					香					八
			■							九

持駒 なし

【作者のコメント】

詰上り（飛香両王手）は見えやすいと思えます。4手目に出す駒が考え所でしょうか。

【解説】

今回の作品展で最大の難問。

9手 で詰む紛れが数多くあり、狙いである「飛香による両王手」にヤマを張らないと、膨大な紛れの海に沈んでしまいます。

AntiAndernach というルールは、駒を取っている間は所属が変わらないので、「49 香 48 X」で合駒を稼ぐ手は自然です。

問題は 4 手目 74 桂。

この意味は作意の詰上りを見れば一目瞭然。AntiAndernach でこの桂を攻方の駒にして、玉が 54 へ脱出するのを防ぐのが狙いです。同時に、Imitator を盤端に近付け、最終手 15 王でちょうど九段目に Imitator を押し付けて壁にする働きも持っています。

しかしこの詰上りが見えないと、なぜ桂なのか、なぜ四段目なのかさっぱり分からず、最初の候補手には上がらないでしょう。

もう一つポイントとなるのが 5 手目の 65 飛です。この飛を 75 より左に打ってしまうと最終手に対し、35 玉と逃げて (Imitator が 49 に移動するため) 王手が掛かりませんし、55 飛では同玉と取られてしまいます。

作意だけ見ると AntiAndernach の効果が現れるのは 6 手目だけで、残りはただの Imitator 入り協力詰なのですが、紛れの多さが本局を超難

問にしています。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

4 8に imitator がいないとダメですね。
これは最後の3手を出されても無理ですわ。

根津将棋名人さん

本作品展の中で一番悩まされた作品。
「香の王手、合駒、合駒を香で取る手、Imitatorの壁駒打ち、取った合駒で王手、壁駒を動かして王手を防ぐ、両王手」という手順構成は読めたので、後はしらみつぶしに探しました。
5手目の飛車打ちが限定打になっているのが上手いですね。

たくぼんさん（※無解）

解けません。紛れが多すぎて人間には解けないのではないだろうか（笑）。

☆筆者も実質正解者ゼロを予想していましたが、根津将棋名人氏が悲観的予想を覆しました。氏のコメントを読むと、両王手の詰上りに狙いを絞っていたようなので、それが成功に繋がったのだと思います。



■ 102-6 神無太郎氏作（正解7名）

協力詰7手

			王							一
					王					二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
				駒						九

持駒 n 桂

※双方の玉以外はすべて中立駒

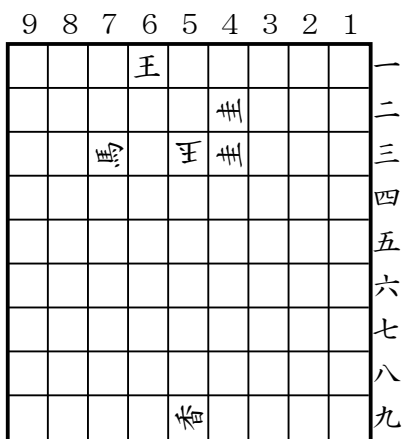
【ルール】

- **中立駒**（「區」あるいは「n駒」）
どちらの手番でも動かせる駒。
（補足）
横向きの字か横に n を付加して表記。
取り方や動かし方は以下の細則に従う
- 8) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる（利きが非対称な駒の場合に要注意）
- 9) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 10) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 11) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 12) 二歩禁が適用される。**手番を問わず**、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 13) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 14) 中立駒でも **白玉への王手は反則**。白玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

【解答】

54n 桂 53 玉 42n 桂成 55n 角
73n 角成 55n 桂 43n 桂成 まで 7 手

(詰上り)



持駒 なし

【解説】

盤上に駒を足さない詰まない形なので、香筋に誘う冒頭2手は必然。ここから中立駒ならではの開き王手ラッシュが始まります。

61 王の配置があるので、3 手目 62n 桂成は白玉に王手する反則。従って 42n 桂成とします。

これに対する 4 手目 55n 角から 73n 角成の活用が上手い手順で、玉の退路を狭めます。

最後は 55n 桂から 43n 桂成の両王手。三連続開き王手の締め括りは両王手でした。

中立駒だけで詰める時は、両王手は最有力の選択肢なので、本局のような「オール中立駒」の問題を見たときは、両王手の詰上りから考えると良いでしょう。

なお、61 王の役割は 3 手目 62n 桂成を防ぐだけではありません。6 手目から「54n 角 43n 角成」とする手が白玉への王手になるようにしているのです。文字通り一石二鳥の配置です。

ここで一つ作家向けの注意喚起です。

すべての駒が中立駒で、二段目以下に玉がいる構図では、「氾濫 47」に出てきた中立龍2枚と中立角による両王手の詰筋が強力です。

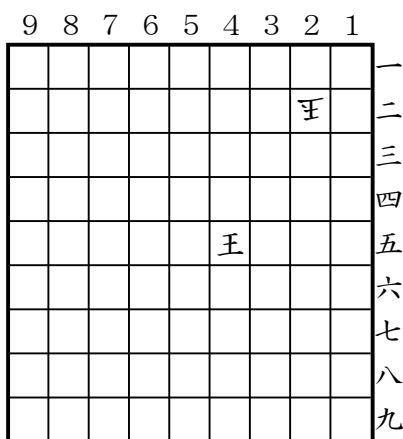
「大駒3枚余詰あり」という格言がありますが、協力詰では合駒で大駒が簡単に出せるので、余詰の脅威は普通詰将棋の比ではありません。他の詰上りを実現したい場合は、これを回避する工夫が必要になります。

本局の場合は手数が短いので心配ありませんが、手数が増すごとに危険は大きくなります。

[参考]「第47回神無一族の氾濫」第4番

神無太郎氏作

ばか詰5手

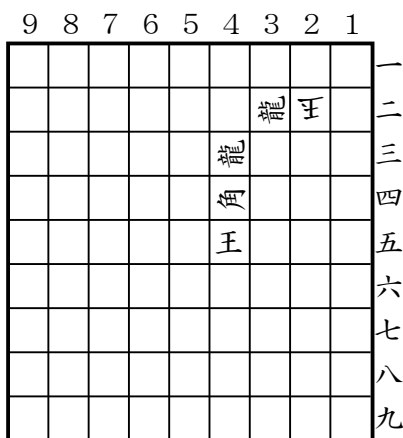


攻方持駒 n角

受方持駒 残り全部 (中立駒)

44n 角 33n 飛 43n 飛成 33n 飛 32n 飛成
まで 5 手

(詰上り)



持駒 なし

本局を含む今回の神無太郎氏の3題は、元々「第48回神無一族の氾濫」への投稿作でした。この回のお題は「古典詰将棋」だったので、それぞれの作品に古典詰将棋との関連が付けられています。本局の場合は将棋大綱 86 番。共通するテーマは「開き王手」です。

良い機会ですので、その将棋大綱 86 番をご覧くださいませ。

[参考]「将棋大綱」第 86 番

八代大橋宗桂

詰将棋 29手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								銀	一	
角					金	歩			二	
		香	金			歩	入		三	
									四	
					歩	桂	桂	王	銀	五
										六
					桂	香			と	七
		桂				香				八
							歩			九

持駒 歩2

(「将棋大綱」第86番、1766年、早詰)

26 と 34 玉 43 桂生 38 銀生 35 歩 44 玉
 53 桂生 47 銀成 45 歩 54 玉 66 桂 63 玉
 74 角成 53 玉 65 桂 42 玉 64 馬 52 玉
 53 馬 41 玉 31 馬 52 玉 53 桂成 61 玉
 51 桂成 同玉 42 馬 61 玉 52 馬 まで 29 手

この作品では桂 2 枚が開き王手を行います。しかも桂は不成です。最初の開き王手に受方の銀も不成で応じるので、双方不成になっています。もしこれを作ったのが現代の作家なら、開き王手の回数を増やすことや、銀の 2 回目の応手も不成に限定することを考える所ですが、構成は実に大雑把です。

なお、「将棋博物館」(<http://torakamaneko.colog-nifty.com/blog/cat57610385/index.html>)には、18 手目 41 玉とする 27 手詰の手順が収録されていますが、作意は上の 29 手詰だと思われる。

また、この作品には 3 手目 43 桂成からの早詰があります。具体的には以下の手順です。

(早詰)

26 と 34 玉 43 桂成 38 銀生 44 圭 同玉
 43 金 同玉 65 角成 42 玉 64 馬 41 玉
 33 桂生 51 玉 41 桂成 61 玉 72 香成
 まで 17 手

5 手目 44 圭から 43 金と引く手は、打歩打開の手筋です。43 への利きがなくなったので、7 手目 34 玉と逃げたときに 35 歩が打てるのです。

「借り猫かも」の記事 (<http://torakamaneko.colog-nifty.com/blog/2014/01/post-eea1.html>)には、この早詰を防ぐ 2 種類の修正案が掲載されています。どちらが好きかは人によって分かれると思いますが、筆者なら原図との差が少ない「32 香→銀」の案を選びます。

続く 2 局もこんな感じで、古典詰将棋の鑑賞を交えながら解説を行います。古図式に興味のない方もいらっしゃると思いますが、たまには現代作品で凝り固まった頭を古図式でほぐすのも良いものですよ。

【短評】

縫田光司さん

攻方王の配置のおかげで左右が限定されるのですね (他にも意味付けがあるのかもしれませんが)。

青木裕一さん

パッと見は課題作でなく普通の作品。

変寝夢さん (※無解)

n 香の配置は 5 6 が好み。

根津将棋名人さん

易しい連続合。

はなさかしろうさん

61 の攻方玉をあまり気にしなかったのが幸いしました。盤の中央でも詰んでしまうんですね。

詰ガエルさん

うっかり 6 手目を 54n 角にしてしまうところでした。

占魚亭さん

鮮やかな三連続開き王手。

たくぼんさん

攻方・受方ともに攻めている不思議な感覚でした。

■ 102-7 神無太郎氏作 (正解 5 名)

協力自玉詰 8 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
							王		六
									七
									八
								王	九

持駒 n 香

※双方の玉以外はすべて中立駒

【ルール】

・協力自玉詰

先後協力して最短手数で攻方玉を詰める。

【解答】

29n 香 28n 角 同 n 香 36 玉 18n 角 27n 飛
17n 飛 29n 角成 まで 8 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
							王		六
								銀	七
							馬		八
							馬	王	九

持駒 なし

【解説】

本局も両王手で仕留める作品。とは言っても、協力自玉詰ですし、逆王手も掛かりやすい形なので前局とは展開が異なります。

初手は 29n 香の一手で、2 手目 28n 角合も「オール中立駒」でよく見られる合駒です。玉頭への合駒は自玉の王手になりやすいので、合駒の種類が n 桂か n 角に限定されてしまうのです。

3 手目からは、前局の開き王手ラッシュのイメージを引きずらないことが大事です。17n 角

や 39n 角成など紛れの森に迷い込むと余計な時間を取られます。平凡に n 角を取る 4 手目は却って盲点になるかもしれません。

ここから作意は飛角のバッテリーを作り、両王手で自玉を詰めるわけですが、構図が攻方の陣内なので、攻方の手番では成れず、受方の手番では成れることを念頭に置く必要があります。

筋の良い解答者の方は 91n 角の遠打の紛れに誘われたようですが、これは n 香の存在に阻まれて上手く行きません。実は次局がその筋を狙いとした作品なのです。

さて、例によって古典詰将棋との関連ですが、作者の示したのは象戯造物 31 番。共通テーマは「両王手」です。

【参考】「象戯造物」第 31 番

初代大橋宗桂

詰将棋 27 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			飛			王	王	王	一
				金		馬		王	二
			馬	馬	馬		馬		三
				銀	馬		銀		四
									五
								歩	六
					歩				七
									八
									九

持駒 飛角金桂

(「象戯造物」第31番、1602年)

- 13 飛 同桂 24 桂 同歩 21 角 同金
- 23 金 同銀 同銀成 同玉 21 飛成 22 馬
- 32 銀 33 玉 22 龍 44 玉 33 角 35 玉
- 24 角成 26 玉 15 馬 35 玉 46 金 44 玉
- 33 馬 54 玉 55 金 まで 27 手

軽い捨駒 2 発から、5 手目 21 角とガツンと打ち込むのが妙手。その後上部脱出を巡る綱渡りの攻防に入ります。21 手目 15 馬が「両王手」で、見事上部脱出を阻止。最後は持駒に歩が余りますが、当時のルールでは持駒が余っても不完全ではありませんでした。

初手と 3 手目は手順前後が可能、23 手目は 26 飛成でも良いという、現代だと大きいキズ、あるいは余詰とみなされる手がありますが、これも当時は気にされなかったことです。

「象戯造物」にはこの作を含め、両王手が出てくる作品が3題あります。その作品番号と両王手を構成する駒は以下の通りです。

- 象戯造物第31番 龍馬
- 象戯造物第38番 角金
- 象戯造物第49番 角金

「象戯造物」に登場する両王手は、あくまで玉を逃さない手段としての両王手です。現代の短編のように両王手を詰上りに持ってきて、手順を鮮やかに締め括るための両王手ではありません。当時は解答募集や評点制度があるわけではないので、そうした演出で解答者の受けを狙う必要はなかったのです。現代の詰将棋とはルールだけではなく、作図方針も異なっていたわけですね。

【短評】

縫田光司さん

91n 角から開き王手の筋に誘われたため難儀しました。

変寝夢さん（※無解）

並べていても最終手まで詰め上がりが分からなかった。

根津将棋名人さん

3 手目に角を動かす手を中心に読んでいたので少し時間がかかりました。

はなさかしろうさん

91 角を狙いに行ってはまりましたが、102-8 を解いて戻り、飛合いが見えてようやく道が開けました。

占魚亭さん

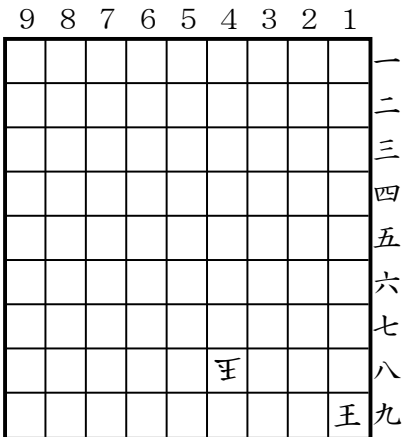
両王手だろうな、という読みが的中。

たくぼんさん

36 玉が指し難い。
17n 飛に気付いて道は開けました。

■ 102-8 神無太郎氏作（正解5名）

協力自玉詰 10手

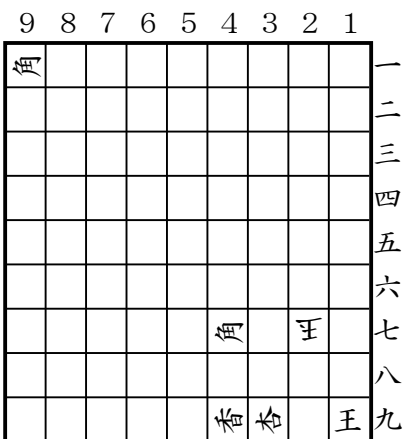


持駒 n香2
※双方の玉以外はすべて中立駒

【解答】

49n 香 37 玉 39n 香 38n 角 47n 角 38n 角
打
同 n 香 39n 香成 91n 角 27 玉 まで 10 手

(詰上り)



持駒 なし

【解説】

中立駒で詰めるとき、両王手は最有力の選択肢ですが、それ以外にも手段はあります。「どう動いても王手が解除できない」という状態を作り出すのです。中立香なら最下段からの王手、そして中立角なら盤隅からの王手がこれに該当します。

本局は盤隅に中立角を放った後、玉の移動による開き王手で自玉を詰めます。まるで味方の放った矢が相手に避けられて自分に突き刺さったような皮肉な幕切れです。

でも、本局の見所はそこだけではありません。

注目すべきは 4 手目 38n 角から 47n 角の限定移動です。この 2 手を挟むことによって 49n 香の利きを遮断し、最終手に対して 46n 香とする移動合を防いでいます。

8 手目 39n 香成は玉を動かさずに王手を回避する手ですが、最終手に対する合駒として使われないか気になるところです。でもご心配なく。最終手に対し、39n 杏を 28n 杏と移動合する手は、自玉への王手となるため指せません。

本局は中立角の遠打と中立角の短距離移動、中立香の「遮断」と「成らせ」を盛り込み、双裸玉から内容豊かな手順を紡ぎ出していると思います。

さて、本局について作者が示した関連作品は、将棋図巧 49 番と将棋玉図 5 番です。

共通テーマは「角の遠打」。名作と、名作の劣化版みたいな対比になってしまいますが、両方共見ていただきましょう。

[参考] 「将棋図巧」第 49 番

伊藤看寿

詰将棋 47 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
	歩							香	二
	皇	と			角				三
と	香	歩			科				四
	皇	歩	飛					香 龍	五
馬								手	六
王	銀	駒	桂	桂				金	七
		銀	又			香	香		八
	皇			香	又				九

持駒 金歩

(「将棋図巧」第49番、1755年、早詰)

98 歩 同馬 同銀 同玉 99 角成 同玉
 11 角 98 玉 99 金 97 玉 67 飛 同と
 98 銀 86 玉 87 銀左 同全 同銀 同玉
 88 金 86 玉 87 銀 75 玉 22 香成 25 角
 同龍 同圭 93 角 84 歩 同角成 同香
 76 歩 66 玉 12 杏 56 玉 55 角成 47 玉
 48 歩 同玉 37 馬 39 玉 28 馬 48 玉
 37 馬 39 玉 29 金 同玉 28 馬 まで 47 手

図巧 49 番はあまりにも有名な作品。単なる遠打ではなく、置いてある角を捨てて 11 に打

ち直す凝りようです。その意味付けは角の位置を変えてその利きを遮断し、打歩詰を回避するという物。この説明だけでも凝った構想であることが分かるでしょう。

上記の手順は「詰むや詰まざるや」(門脇芳雄、東洋文庫 282) に収録されたものですが、実はこの手順には早詰があります。

(早詰) 27 手目 93 角のところ 76 銀以下簡単

この早詰があるため 24 手目 25 角合は誤りで、25 歩合とした 43 手詰が正解になります。

「詰むや詰まざるや」では、24 手目 25 歩合について「文政版『図巧』は誤ってこの手順を本手順にしている」と書かれていましたが、本当は文政版『図巧』の手順の方が正しかったというわけです。

「柿木将棋」の付録に付いている「詰将棋データベース」には無双・図巧の全棋譜が収められていますが、その棋譜にはこの早詰についても記載されており、文政版『図巧』の手順の正しさが認められています。

次に「玉図」の方を見てみましょう。

[参考] 「将棋玉図」第 5 番

桑原君仲

詰将棋 27 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

	皇								一
馬					香				二
又	歩	飛			金	香			三
				歩	皇				四
				香	王				五
			銀		歩				六
		香	香	桂	香				七
		桂			香				八
			又	銀					九

持駒 角歩

(「将棋玉図」第5番、1836年)

44 金 46 玉 45 金 同玉 46 歩 同玉
 55 銀 57 玉 66 銀 46 玉 43 飛成 同歩
 91 角 47 玉 82 歩成 92 と 48 歩 46 玉
 81 と 91 と 47 香 同飛成 同歩 45 玉
 55 飛 44 玉 56 桂 まで 27 手

本局は角を打つ場所が 91 で、神無太郎氏がこれを関連作品として挙げた理由もここににあります。

ただ作品自体は「将棋図巧」第 91 番の模倣の域を出ていません。邪魔駒消去などで修飾していますが、角遠打の意味付けは図巧 91 番と同様ですし、3 手目から 55 銀とする手順前後も成立します。せつかくですので元ネタの図巧 91 番もご覧いただきましょう。

[参考]「将棋図巧」第 91 番

伊藤看寿

詰将棋 27手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

	王		歩	馬						一
馬			飛							二
銀										三
桂	桂	歩								四
			桂							五
	銀	香						科		六
										七
								歩		八
								ス	馬	九

持駒 歩

(「将棋図巧」第91番、1975年)

92 桂成 同馬 82 銀 同飛 73 桂生 91 玉
 82 桂成 同馬 81 飛 同馬 同桂成 同玉
 18 角 91 玉 27 歩 19 と 92 歩 81 玉
 26 歩 18 と 93 桂 71 玉 72 飛成 同玉
 73 歩成 71 玉 72 と まで 27 手

上記手順中、14 手目 91 玉の代わりに 27 歩とすると 8 手変長になります。古図式特有の「妙手説」によって 27 手が正解になるわけです。

古図式では解答募集は行われず「阿吽の呼吸」で作者が正解を決めてしまいます。現代の解答者や鑑賞者にはちょっと困ったやり方ですね。

【短評】

縫田光司さん

前問の紛れでさんざん考えたので、91n 角から開き王手の筋はすぐに浮かびましたが、詰上がりで 49n 香を無力化するための 5 手目の限定移動が絶妙だなあと感じました。

変寝夢さん (※無解)

n 角の遠打が鮮やか。

根津将棋名人さん

詰め上がりが見えるまでに一苦労、見えた後も 49n 香の効きをどうやって消すかに一苦労。下準備に 47 角を移動するのがなるほどの構想でした。中立駒は面白い作品が多いですね。

はなさかしろうさん

91 角のシンプルな 6 手にひとひねり。

49 は取ってはいけないことに気づき、もうひと悩みしました。

☆49n 香を取るには 5 手目から「38n 香 39n 香成 38n 杏 49n 杏…」と進める必要がありますが、これだと杏がソッポに行くので、29 地点に退路ができてしまいます。「除去」の代わりに「遮断」を使う手順は、なかなか思いつきにくいですね。

占魚亭さん

n 角を 2 枚出すのがポイント。
 最遠打が入るとは！

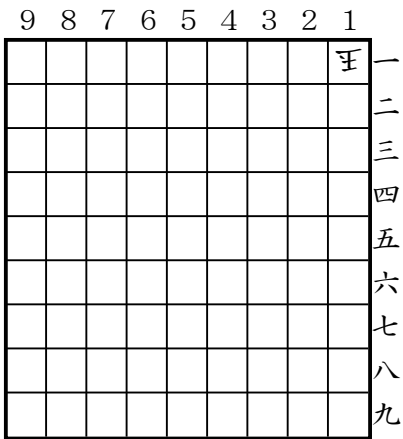
たくぼんさん

91n 角の筋かなと思ったので何とか解けました。双裸玉からの手順とすれば素晴らしい内容。



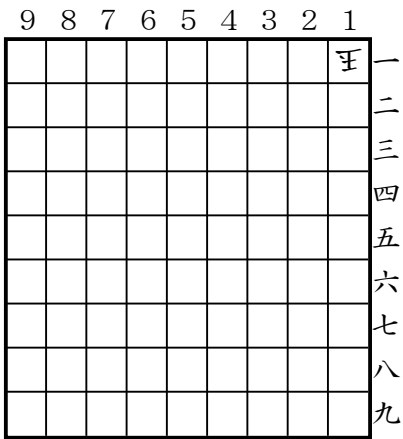
■ 102-9 たくぼん氏作（正解 a)10名、b)7名）

a) 強欲最善詰 9手



持駒 飛金桂2香

b) 安南最善詰 9手



持駒 飛金桂2香

【ルール】

• 強欲

駒を取る手を優先して着手を選ぶ。

• 最善詰

攻方は受方がなるべく早く詰むよう王手を掛け、受方はなるべく詰まないよう応じる。
(補足)

- いわゆる普通の詰将棋から枝葉（無駄合概念や、駒が余るかどうかで手順に優劣を付ける規則）を取り除き、攻方最短を義務化したもの。攻方最短・受方最長のみが正解で、長手数之余詰は不問。

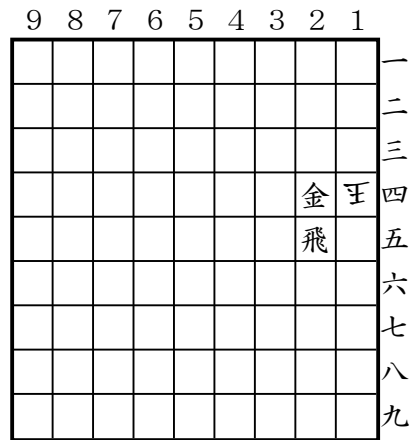
• 安南

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

【解答】

a) 23 桂 21 玉 22 香 同玉 14 桂 23 玉
25 飛 14 玉 24 金 まで 9手

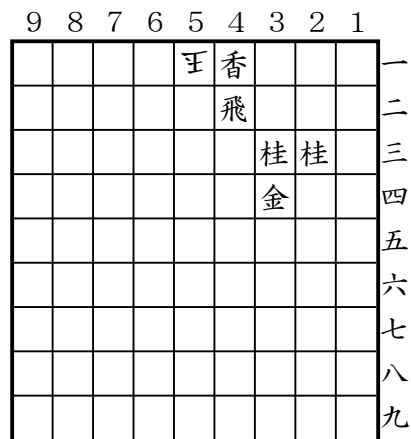
(詰上り)



持駒 なし

b) 23 桂 21 玉 33 桂 32 玉 34 金 41 玉
42 飛 51 玉 41 香 まで 9手

(詰上り)



持駒 なし

【作者のコメント】

古典詰将棋はなかなか難しいですね。
無理やり見つけたのがこれですが・・・

【解説】

まったく同じ配置でルールだけを変えたツイン。

a)は「強欲」なので、うかつに飛を打つと、合駒された時に取らざるを得なくなります。

そのため最初は桂を打って足掛かりを盤上に残し、飛を打った時に桂を取らせることで、合駒を防ぎます。この手筋は強欲詰の無仕掛け

図ではとても有用です。

初手 23 桂に対し 12 玉は「14 香 23 玉 25 飛 14 玉 24 金」で簡単なので 21 玉と逃げますが、変化らしい変化はここだけです。攻方が手順を間違えなければ、受方は変化の余地なく詰上りまで一直線に進みます。

b)は安南なので飛を打っても良いのですが、ルールの特性上、弱い駒を前に、強い駒を後ろに置く方が詰め易くなります。従ってこの場合も桂の王手から入ります。

初手 23 桂に対し二段目に玉が出ると、24 金で上を抑えられてしまうので、a)と同様 21 玉と逃げますが、追撃の 33 桂で一段目を塞がれてしまうと玉が二段目に出て来ざるを得なくなります。

34 金で玉の上部脱出を防げば、後は駒を並べるだけです。最後は一段目の香という安南らしい手で詰めますが、もちろんこれは反則ではありません。安南では何をどこに着手しても「行き所のない駒」にはならないのです。

改めて a)と b)を比べると、a)は打った駒が次々と消えて最小限の駒による詰上り。b)は打った駒が全部盤上に残る最大限の詰上りという対照的なペアになっています。

本局も「氾濫 49」への投稿作で、関連作品は言うまでもなく、「将棋図巧」第 98 番。共通テーマは「裸玉」です。

こんな超有名作だと、さすがに筆者の出る幕はありません。解説は省略させていただきます。

【短評】

縫田光司さん

(a)の方は、7 手目に合駒ができないところなど強欲ルールの面白さが出ていると思いました。(b)の方は、玉を広い方に逃がしても何とかするのが少し意外でした。

青木裕一さん

同じ玉位置、持駒、手数 of 2 つのルールで成立するのはできすぎている感じがする。

変寝夢さん (※a)のみ解答)

玉に駒を取らせるように考えたので協力詰のような解き味だった。

根津将棋名人さん

- a)収束 3 手が盲点になっていて、結構手こずりました。
- b)手なりで追ったら解けました。

井上順一さん

同一図でこんなことができるとは。

はなさかしろうさん (※a)のみ解答)

釣り上げました、という感じですね。

- b)も 23 桂からかと思いましたが、21 玉、24 飛、31 玉、44 飛以下は 11 手。残念ながら解答待ちです。

神在月生さん (※a)のみ解答)

止めの強力駒を残し、縦系の軽駒を取らせて玉を詰位置に移動。

その際に端に誘導する 14 桂が肝要。

占魚亭さん

どちらも使用ルールらしさが出ていますが、b)の方が面白いかな。

たくぼんさん

- a)持駒 5 枚なので考えやすいかと。
- b)捨駒がないのがちょっとユーモラス？でしょうか。

一乗谷酔象さん

- a)14 へ誘い込む。
- b)ルール違いのツインは珍しいが、a)のみでいいと思う。

☆解答は a)の方が多く、両方共解いた解答者も a)を好む人が多い印象ですね。でも、占魚亭氏は b)を推しており、詰将棋に関する好みは本当に人それぞれだと感じます。

■ 102-10 青木裕一氏作（正解9名）

レトロ協力詰 -2+1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
				銀					四
				飛					五
			歩		王				六
									七
				王					八
									九

持駒 なし

※実戦初形から到達可能であること

【ルール】

•レトロ $-m+n$ 手

m 手逆算して n 手で詰む手順を求める。

(補足)

- 特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数 of 逆算や短い手数 of 詰手順が成立する場合、それが優先される。

【解答】

46 玉(+36 銀) 15 飛 / 47 銀 まで -2+1 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
				銀					四
								飛	五
			歩	王					六
				銀					七
				王					八
									九

持駒 なし

(逆算図)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
					銀				四
								飛	五
				歩	王	銀			六
									七
					王				八
									九

持駒 なし

(出題図への手順)

45 飛 36 玉 まで 2 手

(詰手順) 47 銀 まで 1 手

【作者のコメント】

合法局面を前提としないと、-2 手目の飛の戻し先は 6 段目のどこでもよいですが、合法局面を前提とすると、15 以外の戻し先は不可能局面になる、というテーマです。

-2 手目 15 飛だと、逆算図以下、45 玉、25 銀以下の逆算が可能です。他の飛の位置だと 2 手以上の逆算ができません。

【解説】

チェスプロブレムには実戦初形から到達できる局面を合法局面、できない局面を非合法局面（あるいは不可能局面）と呼ぶ風習があります。合法的な図は歓迎され、非合法的な図は歓迎されません。

本局はこれに倣い「実戦初形から到達できる局面であること」を条件に加えたレトロです。指定された逆算の手数は 2 手ですが、そこから先も逆算できるように逆算しないとイケないのです。

でも、最初はこの条件のことは忘れて、2 手逆算することだけを考えましょう。

まず、受方の玉がどこから来たかと考えると、まず 46 が候補に上がります。

36 には何か攻方の駒があった可能性がありますが、王手を掛けているのは 45 飛なので、36 に金や飛があった可能性はありません。もう 1 手逆算したとき、1 手詰に都合の良い駒となると、36 銀が最有力の候補になります。

ここから1手逆算すると、次のような逆算図が浮かぶでしょう。

(参考図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
					銀				四
						飛			五
				歩	王	銀			六
									七
					王				八
									九

持駒なし

この図は2手逆算して1手詰になるという条件を満たしています。しかし、この図はもうこれ以上逆算できません。飛の位置を25や55~96に変えても同様です。

でもここで諦めてはいけません。作意の15飛の逆算だけは更に2手逆算できるのです。

(参考図) 出題図から4手逆算

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
					銀				四
					王	銀	飛		五
				歩					六
									七
					王				八
									九

持駒なし

ここから先の逆算は自由です。お好きな手順を選んで実戦初形に戻して構いません。

つまり、本局は「実戦初形から到達できる局面であること」という条件を利用して逆算手順を限定するのが狙いだったのです。

筆者も一時、チェスプロブレムを作っていた時期がありますが、「実戦初形から到達できる局面であること」というのは、長編趣向作を作ろうとするときは非常に困る習慣でした。

詰将棋は多くの場合単玉なので、そもそも実戦初形に逆算できません。本作品展でも特に注釈がない場合、この条件は課せられないものとしてします。

【短評】

縫田光司さん

最初、46玉36銀型だとどうやっても不可能局面だと思い込んだので苦労しました。

25銀→36銀の開き王手に逆算する手を思い付いたときは嬉しかったです。

変寝夢さん

飛銀の両王手が見えて納得。

証明問題は苦手です。

根津将棋名人さん

36銀を配置すると逆算不可能局面になると勘違いしてすぐに切り捨ててしまい、他の収束を探し続けて悪戦苦闘。

考え直して15飛を発見してスッキリ。

井上順一さん

15飛まで逆算した局面はさらに45玉25銀54玉のように逆算できる。

15飛以外だとそれ以上の逆算が不可能。

はなさかしろうさん

46玉は実戦初形から到達不可能に見えて、ひとしきり他の可能性を探してしまいました。

25銀、45玉、36銀、46玉と入って来たんですね。面白かったです。

Pontamonさん (※無解)

降参です。

どの-2の局面でも1手詰にならない。

見落としなのだろうが、簡単に見つかる図では問題になっていないか。

-2の可能性は、36へ王手で駒を捨てて同玉としたか、44銀の空き王手の時に25の玉が36へかわしながら駒を取る。または、25玉の形で45飛で王手して、36の駒を取った。

しかし、可能性のある-2の局面から1手詰が可能な配置は見つからない。問題図のまま25に龍があるのが唯一の詰み形。

詰ガエルさん

到達可能条件によって、飛車の位置が限定されるわけですね。

たくぼんさん

実戦初形・・・の条件にビビりましたが、15飛以外はそれ以上戻せないんですね。

一乗谷酔象さん

逆算図から更に逆算できるよう飛を15に置く。

☆実を言うと「攻方王手義務」と、「実戦初形から到達できる局面であること」という条件は両立しません。実戦初形からは王手が掛けられないからです。正確には「**王手義務がない場合**、実戦初形から到達できる局面であること」と表記すべきでした。この点、解答者からクレームが来るかと思って心配していたのですが、皆さん脳内で補完していただいたようで、とりあえず一安心です。

■ 102-11 青木裕一氏作（正解4名）※余詰

協力詰7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
							銀		七
									八
									九

持駒 飛 銀

※透明駒:攻方0枚、受方36枚

【ルール】

•透明駒

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→詳しいルール説明は WFP83 号「透明駒の紹介」を参照のこと。

【解答】

11 飛 - X 28 銀 - X 38 銀 同 X
19 飛成 まで 7 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
							X 銀		八
							王 龍		九

持駒 なし

※38Xは受方の角または馬

【作者のコメント及び解説】

王手をかけている駒を透明駒で取る可能性を消す手順が狙いです。

初手:

最遠打でないと詰上りで 11 に香がいる可能性がある。

5 手目:

玉が 7 段目だと 28 銀から連続で王手がかからない。49 だと初手が王手にならない。それで、玉が 29 にいるとわかる。

だとすると、最初玉は 19 にいて 2 手目に合駒、4 手目に 29 に動いたことがわかる。

7 手目:

19 飛成により、2 手目に打った透明駒の合駒が 6 手目に動いたと分かる。

その場合、16 の角が 38 に動いた可能性しかない(角の成生は不明なので透明のまま)。

なので 27 に桂がいる可能性はない。

【解説】

盤上には銀が 1 枚だけ。受方の透明駒は「36 枚」とありますが、これは「残り全部」と同じ意味です。

考えてみれば、普通の詰将棋でも受方の持駒は「残り全部」です。これを透明駒にも適用するのは自然なので、今後は受方透明駒「残り全部」が標準的な出題形式になるかもしれません。

出題形式の話はこれくらいにして、作品の内容に話を進めましょう。

目指すべき詰型は初形に「攻方 28 銀 19 龍、受方 29 玉」を加えた形です。ただし、下手な手順では透明駒にこの詰型の成立を阻止されるおそれがあります。

一つは1筋に香や飛がいて 19 龍を取られるパターン。もう一つは、27 に桂がいて 19 龍を取られるパターンです。

前者を防ぐのが初手 11 飛の最遠打。後に 19 飛成とすれば1筋に駒がないことを証明でき、縦の筋で 19 龍を取られる心配はなくなります。

ただ、11 飛だけでは一段目に玉がいた可能性も生じてしまうので、3 手目 28 銀で玉が1筋の七段目か九段目に居ることを主張します。

27 桂の可能性を消すために必要なのが 5 手目から「38 銀 同 X」とする2手。単に 19 飛成とすると 27 桂がいる可能性が残りますが、この2手を挿入したおかげで 16 から 38 へ角が動いたことが分かり、その中間地点である 27 に駒が居なかったことが主張できます。

つまり、この作は攻方の飛と受方の角が走行して、その経路に障害物が落ちていないことを証明するのが主題の作品だったのです。

盤上配置たった1枚の簡素形で、こんな凝った手順が出るのは驚きですね。

以上、下書き段階ではこのような解説をして話を終える予定だったのですが、解答が届いて2種の余詰があることが判明しました。特に驚いたのが以下の解答です。

38 銀 同 X 28 銀 -X 11 飛 -X
19 飛成 まで 7 手

初手は盤上唯一の銀をいきなり捨て、透明駒だけにしてしまう驚愕の一手。この手順の解答者からは好評を博しました。

もう一つの余詰筋は以下の順です。

31 飛 -X 28 銀 -X 11 飛成 -X
19 龍 まで 7 手

こちらは銀が真後ろに利かないことを利用して、玉が 27 を通過したことを証明するものです。

残念なことに、正解者はこの2種の余詰の両方またはどちらかで、作意解は寄せられませんでした。

透明駒を使った作品は今のところ機械検討できないので、修正をするにしても、検討には時間と労力が必要でしょう。作者には、この余詰解を参考に、じっくりと修正図を練っていただきたいと思います。

【短評】

根津将棋名人さん（※余詰解）

「38 銀 +38 28 銀 -X 11 飛 -X 19 飛成 迄 7 手」

この順が成立していることを論証します。

まず、はじめの 3 手で、3 手目時点での玉位置が 37 か 27 に限定されることを示します。2 手目の+38は(1)玉で銀を取った(2)玉以外の駒で銀を取ったの 2 択ですが、(1)だとすると 3 手目が王手にならないため、(2)の可能性に絞られます。

この時、初形と 2 手目時点での玉位置が変わっていないことから、3 手目時点での玉位置は、「38 銀と 28 銀がともに直接王手となる位置」に限定されます。すなわち、3 手目時点での玉位置(=初形での玉位置)は 37 か 27 に限定されます。

以下、5 手目の 11 飛が王手となることから、4 手目は玉が 27→16 or 27→18 と移動した場合に限定され、3 手目時点での玉位置が 27 であると限定されます。(それと同時に 27 は空き枡であることも示されます。)

そして最終手で玉の移動が 27→18→29 であると限定されます。この時 38 の地点は 2 手目に玉方が着手した駒で埋まっており、また、玉方には 27 桂や 11 香などの 19 竜を取れる透明駒が存在しないことも手順中に示されているために、以上の順で詰め上がりとなります。

「31 飛 -X 28 銀 -X 11 飛成(生でも可) -X
19 竜(19 飛成) 迄 7 手」

次にこの順が成立していることを論証します。

5 手目までの手順から、初形で 36~39、4 手目時点で 16 or 18 にいることがわかります。以上より、2 手目終了時点では 2 筋にいないと、3 手目が 28 銀の直接王

手であることを考えると、2 手目時点では玉は 27 にいることがわかります。

5 手目以降は前述の順と同様で、玉が 27→18→29 と移動したことがわかり、最終手の龍を取ることができないので詰みとなります。(こちらは 5 手目が成生非限定なのでおそらく作意順ではないと思います。)

☆根津将棋名人氏は2種の余詰順の両方を指摘されました。最初は筆者もこれでは 27 桂の存在可能性を消せていないのではないかと勘違いして、氏に問い合わせてしまったのですが、丁寧な論証を戴いて納得することができました。解答の点数には計上していませんが、実質二問分の正解に等しい解答だと思えます。

井上順一さん (※余詰解)

38 銀 同 X 28 銀 X 11 飛 X 19 飛成 まで 7 手

初手 38 銀とそれが取られた直後の 28 銀が王手であることにより、初形での透明玉の位置は 27 か 37 であり 2 手目には動いていない。5 手目の 11 飛が王手であるためには透明玉は 1 筋にいることになり、4 手目は透明玉が 27 から 1 筋に動いたことになる。

また 5 手目の 11 飛と次の 19 飛成が王手になることから、6 手目は透明玉が 18 から 29 に移動したことがわかる。

以上より 4 手目と 6 手目は透明玉が 27→18→29 と動いたことになり、2 手目で 38 の銀を取った透明駒(玉ではない)は 7 手目も 38 に残っている。

また最初に透明玉がいた 27 は 7 手目も空きますであり、1 筋に透明駒がないことから、7 手目の局面で透明玉は動けず、19 龍を取ることができる透明駒も存在しえないことからこれで詰みとなる。

最初は 47 銀をそのままにして、28 銀、19 龍の詰上りを考えていたが、27 に透明桂がある可能性をなくす手順が見つからなかった。

2 手目で盤上から透明駒以外いなくなってしまうのが予想外の手順。出題図で 47 銀を持駒にしてもこの手順は成立しているようだが(余詰があるかは不明)、それならこの手順は発見できなかったと思う。あるいは解図に着手しなかったかもしれない。

47 銀の配置がヒントとしてすばらしい。

はなさかしろうさん (※余詰解)

31 飛 -X 28 銀 -X 11 飛成 -X 19 龍まで
取りつくしまも見いだせないかと思いきや、詰め上がりを決め打てれば、後は 27 に受方の桂がないことの証明で良いはず。
合っているでしょうか？

Pontamon さん (※無解)

透明駒のルールを理解していなかったのも、駒の配置はいくらでもあると思ったけど、局面を解答するのではなく、詰手順が成り立つことがそれまでの着手で証明されている必要があるのか…。手が出ませんでした。

たくぼんさん (※誤解)

詰上りこの形しか思い浮かばなかった。
正解の自信はないです。

☆たくぼん氏は「21 飛 -X 28 銀 -X 11 飛成 -X 19 龍 迄 7 手」の解答ですが、この場合初形に 26 玉 27 桂の透明駒があった可能性を潰せていないと思います。



■ 102-12 変寝夢氏作 (正解 10 名)

レトロ協力詰 -2+1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							王	将	一
									二
						糸			三
						馬			四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

※44馬は中立駒

【解答】

22n 馬(+44 桂) 23n 馬 / 32 桂成 まで -2+1 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							王	将	一
							圭		二
						糸		馬	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

(逆算図)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							王	将	一
									二
						糸		馬	三
						桂			四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

(出題図への手順) 22n 馬 44n 馬 まで 2 手

(詰手順) 32 桂成 まで 1 手

【作者のコメント】

44 に何を置くか考えるだけ。

【解説】

レトロ問題に中立駒ということで一瞬身構えてしまいますが、素直な逆算を考えれば解ける問題です。

中立駒と通常駒の違いは、同じ駒を受方も攻方も動かせること。となれば、逆算の2手はどちらも中立馬を動かす手だと予想することができます。

まず 44n 馬を動かして王手になる逆算は 22n 馬のみ。跡地の 44 には攻方の駒を置くことができますが、詰みに役立ちそうなのは桂くらいです。更に 44 桂と連携して 1 手詰を作れそうな中立馬の移動先を探すと、23n 馬への逆算が想定できるでしょう。

逆算が済んだ後の 32 桂成は、23n 馬では取り返せません。自玉への王手となるからです。せっかく作った成桂を取られてしまうと思い込み、苦戦した解答者も多かったようですが、慣ればそういう勘違いも減ってくると思います。

【短評】

林石さん

n 馬の位置と持駒なしの情報から、44 に何かがあったと分かります。

後から手順を読み返してみて、32 桂成を同 n 馬できるのではと考えてひやっとしました。

縫田光司さん

予想外に苦戦しました。

根津将棋名人さん

素直に考えたらあっさり解けました。

井上順一さん

n 馬単独では詰まなさそうなので、初手は駒取の逆算になる。

はなさかしろうさん

中立馬ですが、案外普通にひもを付けてくれますね。

たくぼんさん

ときどき全部中立駒と勘違いして解いてる

場合があります。

☆これは「オール中立駒」で作られた神無太郎氏の作品の影響ですね。似て非なるルールを近い時期に解くと、ルールが混ざってしまうことはよくあります。

一乗谷酔象さん

2手で2回動かせる中立馬。

■ 102-13 変寝夢氏作（正解9名）

リパブリカン協力白玉詰4手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
				王					五
									六
									七
									八
								飛	九

攻方持駒 n桂

受方持駒 なし

※29飛及び持駒桂は中立駒

【ルール】

•リパブリカン

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。

(補足)

- 1)双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
- 2)詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。
- 3)単玉の場合最終手を除き王手義務はない。白玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。

【解答】

25n 飛 28n 飛成 37n 桂 29n 桂成(+19 王)
まで 4 手

(詰上り)

									9	8	7	6	5	4	3	2	1		
																			一
																			二
																			三
																			四
																			五
																			六
																			七
																			八
																			九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

【作者のコメント】

n 飛の位置変更が狙いです。

【解説】

中立駒と言えは両王手…ですが、使用できる駒は玉を除けば中立駒の飛と桂だけ。当然、詰型も限られてきます。

飛が持駒なら着手の自由度も高いのですが、「37n 桂 29n 桂成」のように 29n 飛を取る筋は論外。受方の手番で取った駒は受方の持駒になるので、王手が続かなくなります。

「37n 桂 29n 桂成」の2手は作意でも出てくるのですが、その前に「25n 飛 28n 飛成」の2手を挟み、飛を逃げておくのが伏線の好手。これで龍と圭の両方が盤上に出現します。

そして、その2枚の利きの焦点である 19 に攻方玉を出現させれば、見事両王手の詰みとなります。リパブリカンだと玉が後から出現するので、近接王手でも両王手ができるのです。

同じようでも最終手 18 王は失敗です。

これは両王手ではないので、28n 龍をどこかに逃がせば逃れになります。29 圭は受方の手番では 18 に利いていません。利きが上下非対称な中立駒は常に手番と利きの関係に注意してください。

【短評】

林石さん

動かす、成る、打つ、成る、のリズム。
29 飛の配置が手順前後を防いでいるのですね。

縫田光司さん

最終手から 28n 成桂で逃れる、と最初なぜか誤解してしまい、しばらく首を捻っていました。

根津将棋名人さん

これで合ってるのかな…？
リパブリカンは初めて解くのでルールの理解に自信がないです…。

井上順一さん

5 手目に 28n 圭として n 龍を取られるので詰んでない、と一瞬勘違いしてしまう。
n 駒に慣れるのは大変。

はなさかしろうさん

両王手なら、という感じ。
するりと解ける（気がする？）問題は楽しいです。

占魚亭さん

37n 桂～29n 桂成で n 飛を取る筋がちらつきました。

たくぼんさん（※誤解）

この詰上りが最近すぐに浮かぶようになりました。

☆たくぼん氏は「49n 飛 59n 飛成 37n 桂 29n 桂成(39 玉)」の解答でした。これは「38 玉」で逃れています。受方の手番では 29n 圭が 38 に利きません。繰り返しになります。利きが上下非対称な中立駒は、手番と利きの関係に常に気を配ってください。

一乗谷酔象さん

中立駒の二重王手を目指す。



■ 102-14 変寝夢氏作（正解 8 名）

協力詰 5 手

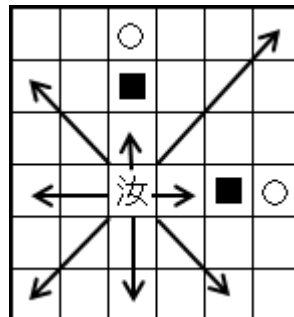
										一
										二
										三
										四
							王			五
										六
										七
										八
				汝						九

持駒 なし
※汝:Siren

【ルール】

• Siren (汝)

フェアリーチェスの Siren (汝)。
駒を取らないときは Queen の動き。
駒を取るときは Locust(蝗)の動き(Queen 利きの方向にある敵駒を跳び越えその 1 つ先の空きマスに着地し、跳び越えた敵駒を取る)。



(矢印が駒を取らない時の動き。○が駒を取る時の移動先。
■は敵駒。これを取って○に行く。
■が味方の駒だったり、○の地点が埋まっていたりするとそこには行けない。)

【解答】

85 汝 65 金 同-55 汝 36 玉 37 金 まで 5 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				汝					五
						王			六
						金			七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

マリン駒を使ってみました。

自ら動けますが、Locust とどう違いを出すかを考える必要があります。

【解説】

チェスには駒を取るときと取らないときで違う動きをする駒があります。言わずと知れた Pawn です。Pawn は将棋の「歩」に相当しますが、その機能は「歩」よりはるかに奇妙です。

フェアリーチェスには Pawn の持つ「駒を取るときと取らないときで違う動きをする」という性質を取り出して人工的に作られた駒があります。それが Marine Piece と呼ばれる駒達であり、その中の一つが Siren です。

Siren に割り当てる漢字は何にしようか迷ったのですが、Siren の仲間の駒にはどれも海に関する神話や伝説の登場人物の名が付けられているので、「シ」の付く漢字で統一し、Siren は「汝」と表記することにしました。

そんな余談はさておき、Siren は基本的な動きが Queen で、駒を取る時に Locust (蝗) の動きとなる駒です。Locust 自体がフェアリー駒で、Siren がフェアリー駒を元にしたフェアリー駒となると、それだけで解く気をなくす人も多いかもしれません。

ただ、本局に限っては新種のフェアリー駒だからといって恐れる必要はありません。

最も分かりやすい解法は Siren を Locust として解くことです。もちろん、出題図の Siren をそのまま Locust に置き換えてもまったく動けないので、持駒にします。

【参考】 Siren の代わりに Locust を使う

協力詰 5 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
							王		五
									六
									七
									八
									九

持駒 蝗

※蝗:Locust

これなら Locust を使った本作品展の過去問を参考にすれば解けますね。特に 48-1 が一番参考になると思います。具体的には以下の手順で詰みます。

95 蝗 65 金 同-55 蝗 36 玉 37 金 まで 5 手

この手順の初手は 75~95 のどこでも良い(非限定)であり、Locust を Siren に変えても成立します。つまり、元の図で初手 85 汝とすれば、上記の手順と同様の手順で詰むのです。

これで解は見つかりましたが、念のため紛れも確認してみましょう。

2 手目 65 金合は限定。55 金合だと「同-45 汝 26 玉 27 金」と進んだとき、15 玉で逃げています(Locust の動きをしたとき着地場所がないため)。

また、初手 29 汝は以下「28 金 同-27 汝 35 玉 45 金」と進めても 37 玉で逃れます。Siren が Locust の動きをしようとしたとき、着地場所が攻方の金で塞がっているので動けないのです。

結局、本局で Locust でなく Siren が使われている意味は初手の非限定の防止でした。今後はどうやって Marine Piece の独自色を出せるかが課題になりそうです。

【短評】

縫田光司さん

汝を縦向きに使うと、一見同じようでもうまくいかないんですね。

青木裕一さん

盤の左側も使う。

根津将棋名人さん

馴染みのない駒でしたが、詰め上がりが見えたのでスッキリ解けました。

「29 汝 28 金 28-27 汝 35 玉 45 金」が 36 玉で逃れなのとの対比がちょっと面白く感じました。

井上順一さん

Locust だと思えば詰上りは想定しやすい。

はなさかしろうさん

汝、盤側が絡まなければクイーンに近い。でも初手 69 では詰まなくて、やはり奇妙な駒でした。

神在月生さん（※誤解）

ルール説明の汝の動きを読んで、さて解いてみよう…。ありやりや、スンナリ解けちゃった。初級者用入門篇なのか？何かを誤解しているのか？（不安）。

☆神在月生氏は「58 汝、47 飛合、36 汝、15 玉、14 飛 まで 5 手」の解答でした。これは最終手に「同玉」で不詰。Siren の跳び先がないため動けないのです。

たくぼんさん

L だと初手が出来ないし、持駒にすると非限定になるし・・・ということですね。悩ましい所。

一乗谷酔象さん

頭金を狙う攻め。腹金では退路が生じる。

【総評】

縫田光司さん

今回はほどよく考えさせる作品が多めで楽しめました。11 番をかなり考えたのに解けなかったのは残念でしたが、面白そうなので結果稿を楽しみに待ちます。

根津将棋名人さん

今まで WFP は時々読んでいたのですが、今回は初めて解答を送らせていただきました！全体的に楽しく解けた作品が多かったです！根気の続く限りは解答を送り続けたいと思います！

☆根津将棋名人氏は初解答で全題正解。特に 102-5 を正答したのはお見事でした。投稿作品もいただいているので、作家としての活動の方も期待しています。

神在月生さん

ほんのちょっとだけ解けたので初解答させていただきます。ルール不勉強での的外れの解答があるかもしれませんがお許しの程を。今回では出題状況から 102-3 と 102-4 は明らかに誤解と自認しますが、どうしてもその判別がつかないので恥を承知で解答します。どうぞよろしくお願ひします。

☆こちらこそよろしくお願ひします。慣れないルールでの誤解は恥じることはありません。筆者も未だにルールを勘違いすることがあります。たとえ間違いでも積極的に解答することで、ルールに早く慣れることができるはずです。

Pontamonさん

いろいろ手を出したけど、結局正解は自作だけみたい。

たくぼんさん

全解を目指しましたが、Imitator と他のルールの組合せは解けそうな気がしないくらい強力ですね。

☆今回は出題作品数が **15** 題もあったので、どれだけ解答が集まるか心配していたのですが、蓋を開けると **13** 名から解答が集まりました。嬉しい誤算です。
第 **103** 回は更に出題数が多く、特殊な問題も含まれているのですが、今回に負けない位の

解答が寄せられることを期待しています。

以上

WFP 作品展 100 回記念一人一作展で、soga さんの「詰将棋コンピュータ」の前半部分から作った「素数判定器」を発表した。本作はそれと対をなす「角谷予想」である。

「詰将棋コンピュータ」の後半部分と同様の剰余に応じて処理を変えるという処理が狙いで、玉が初形の位置にあるときの攻方持駒の燕 A の枚数が角谷数列と同様の増減を繰り返しながら 1 に到達して詰むというストーリーを実現したもの。なるべく原作の部品や雰囲気を保ちながら全体を整えたのも「素数判定器」と同様。

もともと WFP 創刊 10 周年記念として WFP120 号で発表する予定だったのが、諸事情により少し遅れてしまうことになった。悪しからずのほど。

多玉禁欲成禁協力詰 m手

	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01			
01	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	01	
02	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	02	
03	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	03
04	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	04
05	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	05	
06	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	06	
07	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	07	
08	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	08	
09	♞	飛																											王	09		
10	●																													●	10	
11	●																													●	11	
12	●																													●	12	
13	●																													●	13	
14	●																													●	14	
15	●																													●	15	
16	●																													●	16	
17	●																													●	17	
18	●																													●	18	
19	●																													●	19	
20	●																													●	20	
21	●																													●	21	
22	●																													●	22	
23	●																													●	23	
24	●																													●	24	
25	●																													●	25	
26	●																													●	26	
27	●	●																												●	27	
28	●	王	●																											●	28	
29	●																													●	29	
30	●																													●	30	
31	●																													●	31	
32	●																													●	32	
33	●																													●	33	
34	●																													●	34	
35	●																													●	35	
36	●																													●	36	
37	●																													●	37	
38	♞																													♞	38	

攻方持駒: An
受方持駒: A∞ B∞

【ルール】

- ・協力詰：先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。
- ・禁欲：駒を取らない手を優先して着手を選ぶ。
- ・成禁：詰手順中に駒を成る手があってはいけない。
- ・多玉：複数の玉を使用する。どの玉に対しても王手放置は禁手。
- ・●：●は不透過・不可侵の領域を表す。取ることも通過することもできない。駒というより、マスの性質。
- ・燕 A (A)、燕 B (B)：A、B は異種の燕。いずれも禽将棋の「燕」と同じ性能で、同じ筋に三つ以上の同種の駒が存在できず、打燕詰の禁則も適用される。
- ・横牛 (牛)：大局将棋の「横牛」。横には自由に走ることができ、斜め右上と斜め左下に一つ動ける。左右非対称の利きが特徴。
- ・横狼 (狼)：大局将棋の「横狼」。横には自由に走ることができ、斜め左上と斜め右下に一つ動ける。「横牛」とは左右逆の利き。
- ・駒 n：持駒の数を（特定の数ではなく）変数 n で指定する。これにもなって手数指定も n の関数として表現される。n が無限大のときにはその駒を無制限に使えることを表す。

【手数】

攻方持駒の燕 A の枚数が $n > 0$ のときの詰手数 m は、後述する N_a 、 S_a 、 N_b 、 S_b を使って、

$$m = 162N_a + 82S_a + 44N_b + 110S_b - 89$$

と表すことができる。

【作意手順例】

n	m	作意略記手順
0	—	③⑤…
1	309	①'⑥⑦⑧⑩①②③④⑤'⑪⑫
2	155	①②③④⑤'⑪⑫
3	1609	①②①'⑥⑦⑧⑨⑦⑧⑩①②①②①'⑥⑦⑧⑨⑦⑧⑨⑦⑧⑩①②①② ①②①②③④④④④⑤①②①②③④④⑤①②③④⑤'⑪⑫
4	481	①②①②③④④⑤①②③④⑤'⑪⑫
5	1345	①②①②①'⑥⑦⑧⑨⑦⑧⑨⑦⑧⑩①②①②①②①②③④④④④⑤ ①②①②③④④⑤①②③④⑤'⑪⑫
27	1957537	割愛

【略記手順の展開】

①②③・・・④⑤⑥という手順は、以下のように展開する。
始→①、①、①→②、②、②→③、③、③→・・・→④、④、④→⑤、⑤、⑤→⑥、⑥
展開後の各項の手順は資料ページ掲載の kc.xlsx の「手順」シート参照。

【角谷予想】

- 任意の正の整数 n について、
- ・ n が偶数なら、n を 2 で割る
 - ・ n が奇数なら、n を 3 倍して 1 を加える
- という操作を繰り返すと、有限回の操作で 1 に到達するというのが角谷予想。いまだ証明もされておらず、反例も見つかっていない。
- なお、詰将棋としての実装に際しては、実装の容易性（より正確にはコンパクト化）を考慮して、以下のような同値な操作をベースにした。
- ・操作 a：n が偶数なら、n を 2 で割る
 - ・操作 b：n が奇数なら、n を 3 倍して 1 を加え 2 で割る

n から開始して操作 a を N_a 回、操作 b を N_b 回施したあと 1 に達したとして、操作 a を施したときの減分 ($n/2$; $n=2k$ ならば k) の総和を S_a 、操作 b を施したときの増分 ($(n+1)/2$; $n=2k-1$ ならば k) の総和を S_b とする。これらの値を使って攻方持駒の燕 A の枚数が n 枚のときの詰手数を表すことができる。なお、 $S_a+1=S_b+n$ が成り立つ。

【MM プログラム】

「角谷予想」は、以下の MM プログラムを詰将棋として表現したものである。

- 1: JZDEC(A, 2, 4)
- 2: JZDEC(A, 3, 6)
- 3: INC(B, 1)
- 4: JZDEC(B, 5, 10)
- 5: INC(A, 4)
- 6: INC(A, 7)
- 7: INC(A, 8)
- 8: JZDEC(B, 9, 1)
- 9: INC(A, 6)
- 10: JZDEC(A, 11, 0)
- 11: JZDEC(A, 12, 0)
- 12: INC(A, 13)
- 13: INC(A, 1)

命令 1 から命令 9 までは盤上の該当部分とは素直に対応づけられると思うが、命令 10 から命令 13 についてはかなり意識しているので留意願いたい。

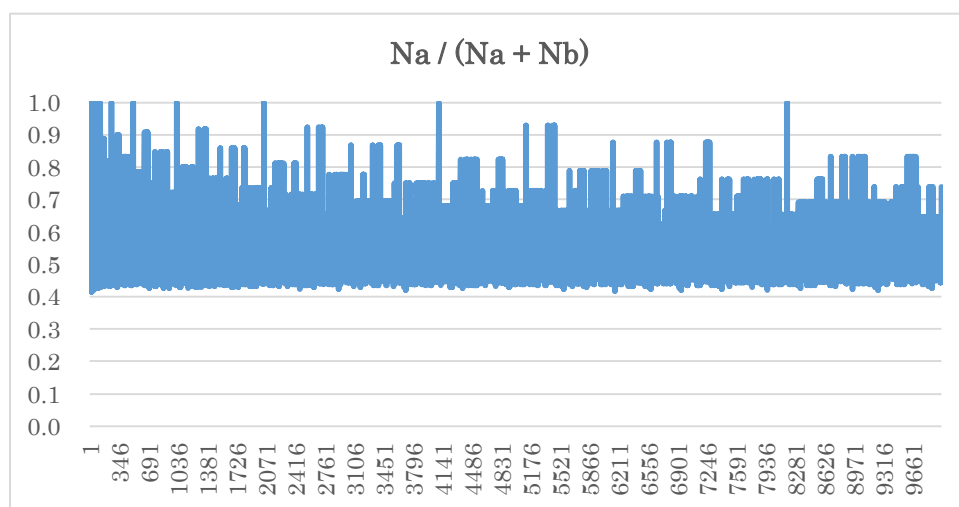
【資料】

関連資料（個人的メモに近い）は下記ページに掲載してある。

<http://2nd.geocities.jp/cavesfairy2/kc/>

【参考】

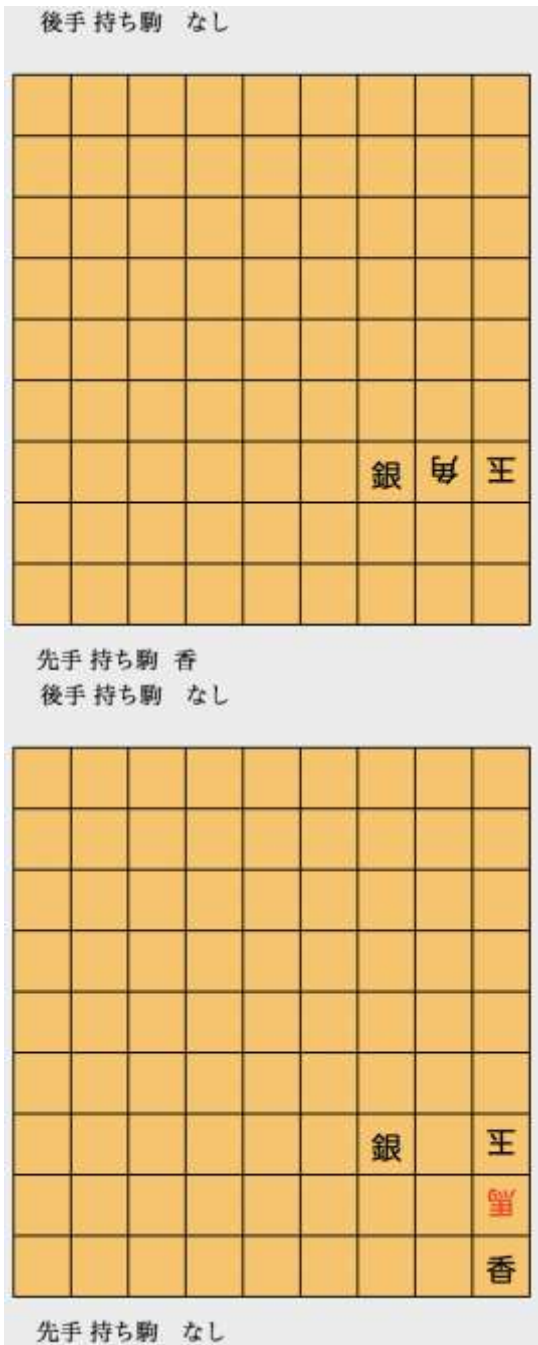
$1 \leq n \leq 10000$ について、 N_a と N_b の比をグラフにしてみた。面白いのかつまらないのかよくわからない。本当は n の範囲をもっと広くしたかったのだが、Microsoft Office が耐えられなかった。



以上

All-In-Shogi の紹介

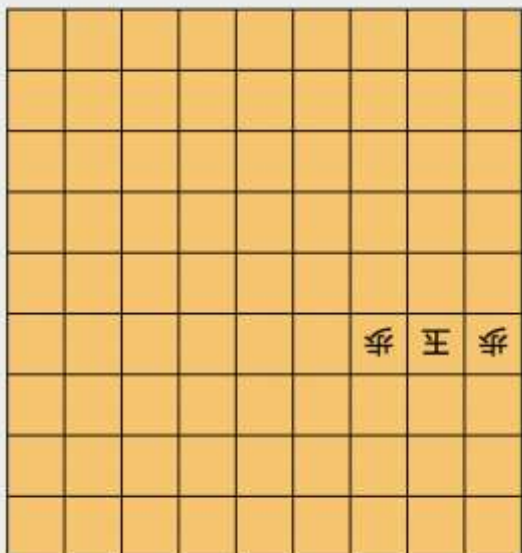
フェアリー詰将棋データベースで面白いルールがあったので、紹介させていただきます。
 All-In-Shogi の詰将棋は 1999 年プロブレムパラダイス誌で、発表がありました。
 WFP1 号でも若島正氏作が紹介されています。
 今回紹介させていただくにあたってのルール設定は、WFP1 号に掲載されていた「双方とも、自分の手番のときに相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかる位置に動かしてもいいし、敵の持駒を打ってもいい。ただし、双方とも 1 手前の局面に戻すような着手は禁手とする。」と定義することにします。



All-In-Shogi 協力詰 3 手

一目どうやっても 3 手で詰むようには思えません。
 とにかく 19 香と打ってみましょう。
 後手は 18 に角を移動する一手です。ひとまず成ってみます（次図）。
 ここで普通詰将棋だと先手の合法手は 18 香、26 銀、28 銀ですが、All-In-Shogi だと玉の移動、18 馬の移動も先手の合法手になります。
 正解は 27 馬で、これで詰んでいます。
 詰め上がりの検証ですが、先手の駒を動かす合法手の中で王手を逃れる手はありません（先手の持駒に角桂があれば 18 打で逃げますが）。後手の駒を動かす合法手ですが、普通に考えれば 18 馬で逃げますが「双方とも 1 手前の局面に戻すような着手は禁手とする」のルールがあって指せません。よって詰んでいます。
 「双方とも 1 手前の局面に戻すような着手は禁手とする」はかなり強力なので、このルールを利用した詰め上がり考えた方がいいように思います。
 2 手目から 18 角生、27 角成だと 18 馬が禁手ではなく不詰であることも確認して下さい。
 同時に王手駒を移動されて詰まない筋が生じることも注意しないとイケません。
 なお、駒取りの場合ですが、手番は関係なく先手の駒で取った場合は先手の駒台に、後手の駒で取った場合は後手の駒台に移動することになります。

後手持ち駒 飛2 角2 香3 金3 銀4 桂4 歩16



先手持ち駒 香 金

All-In-Shogi 協力詰 3 手

こちらは一目いろいろ詰め筋がありそうです。

ひとまず 29 香と打ってみましょう。

一目 15 玉、25 金までですが、打った金を 24、35、34 に動かして詰みません。

また 17 玉、28 金も 26 に玉が戻れないのでうまそうに見えますが、28 金を動かして詰みません。

正解は、28 金と先手の駒台の金で合駒をします。そして止めの 27 玉で詰みとなります。

作意を清書しますと、29 香、28 金、27 玉の 3 手で。2 手目 17 玉、28 金、26 玉でも同じ形になりますが、2 手短く表現できます。

思ったこと

最初は、どうやって相手の手番の駒を動かすことばかり考えていたのですが、最終手に関しては自分の所属の駒で詰ます方が難易度が高いと思います（特に飛角金銀が）。

詰まなそうな局面があっさり詰んだり、どうやっても詰みそうな局面が詰まなかったりすることがよくありました。

一方の駒ばかり動かす構成にすると、手順が単調になりやすいので、連続系との差別化に気をつける必要もあるようです。

ともあれ、ルール自体は単純な割に奥行きが広そうですし、他のルールとの複合も容易に感じました。

面白いルールであることは間違いないので、一度創作されてはいかががでしょうか。

WFP サロン

合法手による利かず駒並べ(結果)

Pontamon

合法手では二歩はできず、飛の筋には歩を置けないので、合法手での利かず駒配置は歩4枚を配置できない 36 枚が最大なのではと思うかもしれませんが。

『玉は「と」と同じ筋』という局面の説明でネタばらししていますが、歩よりも利きが多い“と”を配置するのは意外かも。

【出題図】

後手の持駒：歩2

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀		金		金		玉		銀	一
			飛						二
歩	香	歩		歩		と		歩	三
桂	歩						香	角	四
桂		歩		と		歩		桂	五
馬	馬						歩	桂	六
歩		と		歩		歩	馬	歩	七
					飛				八
馬		王		金		金		馬	九

持駒 歩

問題仕立てにした、合法手の利かず駒配置 37 枚は出題図になります。

その後、3手で 38 枚配置になる手順は、

▲49 歩、△44 歩、▲48 歩

で、先後ともに持駒の歩を打って、先手が飛を取るまでの3手で合法利かず駒配置 38 枚になります。真似将棋を指していくと、出題図の他に、先後の持駒と 55 の駒が金になる場合と銀の場合もあります。(出題図の盤上の金や銀4枚は“と”にし、55 に1枚と持駒3枚)

【合法手による最多利かず駒並べ】

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀		金		金		玉		銀	一
			飛						二
歩	歩	歩		歩		と		歩	三
桂	歩				香		香	角	四
桂		歩		歩	歩	歩		桂	五
馬	馬						歩	桂	六
歩		と		と		歩	歩	歩	七
					馬				八
馬		王		金		金		馬	九

持駒 飛

合法手の利かず駒の最多は、図の 39 枚です。38 枚配置も 39 枚配置も持駒に飛があるので、何かズルしている感じがありますね。(大駒4枚配置が暗黙の了解の感じがあると思うので)

大駒4枚が盤上に配置されている場合の利かず駒配置の最多は出題図のような 37 枚のようです。

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

2018年9月15日(土)

第103回 WFP 作品展

フェアリー作品 8題
推理将棋 3題
特別出題 1題

WFP 10周年記念 安南詰最長手数作品(解答期間延長)

フェアリー作品 1題

Fairy of the Forest #56

協力詰 3題

2018年10月15日(月)

第104回 WFP 作品展

フェアリー作品 9題
推理将棋 2題

作品募集締切一覧

第49回神無一族の氾濫

お題:「理論上の上限・下限」

1題は通常のばか(協力)詰

募集締切:2018年10月14日(日)

募集作品数:4+1(ばか詰枠)

送り先:

神無七郎(k7ro.ts@gmail.com)

1人何作でも可。採否は10月21日までに通知します。

(詳細は本号P16をご覧ください)

10周年記念!安南詰最長手数作品!解答延長

先月号で発表、解答募集致しましたが、なんと解答が1通も届きませんでした。さすがにこれでは新記録作が泣きますので、解答期間を1ヶ月延長します。

解答募集の詳細やヒントは先月号をご覧ください。是非とも多くの解答をお寄せいただきますようお願い致します。

神無七郎作

安南詰 99手 ※利き二歩有効

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			皇						一
		と	皇		科				二
			皇	歩	入	歩			三
	入		入	皇	王	科		歩	四
	歩	入					王		五
	桂		歩	歩					六
			銀		歩		歩		七
	入		入						八
		桂							九

持駒 角香歩3

解答宛先:たくぼん takuji@dokidoki.ne.jp

2018年 第122号

Web Fairy Paradise

非売品

平成三十年八月号

平成三十年八月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先 takuji@dokidoki.ne.jp

須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp